悠久同窓会会誌

悠　久

阿南高専悠久同窓会

2023・春
第55号
2023年3月17日発行

発　行　阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017　阿南市見能林町青木265
印　刷　(有)山田印刷所

令和４年８月１２日　大島雅緒氏講演会

目　次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより
　時勢に合った教育・学生の活躍 2022
　学寮（明正寮）便り・一般教養便り・機械コース便り
　電気コース便り・情報コース便り・建設コース便り
　化学コース便り・広報情報室より・専攻科より
会員だより
　近況短信　・　勝手に書きます！言いたい放題名作映画紹介（第８回）
　赤い手帖（32）・　たそがれびとの子守唄 ③・　午後の珈琲ブレイク
会員だより
　フランス国土一周 回想録（2）・３ヶ月間のイギリス出張
令和４年悠久同窓会総会
現役クラブだより
〈体育部〉　陸上競技部
〈文化部〉　吹奏楽部・茶道部・プログラミング研究部
阿南高専祭 2022
支部だより
　東京支部
総会のお知らせ

ご挨拶

名誉会長
箕 島 弘 二

悠久同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと心よりお慶び申しあげます。私は、大阪大学大学院から異動して昨年４月に校長に着任しました。工業高等専門学校勤務は初めてですが、大阪大学・京都大学と、学生への対応が大きく異なる大学に勤務した経験を元に、実践的な高度技術者及び研究者を養成・輩出する使命を全うすべく尽力する所存です。今後ともよろしくお願い申しあげます。

2020年初頭に始まったコロナ禍の中、教職員の方々の適切な対応により、半数弱の学生が学内の学寮で寝食を共にしているにもかかわらず、クラスター発生を押さえ込み、多くの大学が2021年度もオンライン講義を併用していた中で、2020年後期から全面的に対面講義を再開するなど、教育の質を確保してきました。しかし、感染力の強いオミクロン株やその変異株が支配的になった昨年の第７波、年末からの第８波では、学生、教職員の感染者が増え、第７波の折には１クラスのみ短期間ですがオンライン講義に追い込まれました。このような中でも、春季体育大会を学年別に午前と午後に分ける新たな形式で３年ぶりに昨年５月に実施、秋には阿南高専祭を一般の方々に開放して開催しました。日々の学生生活に制限がかかって自由闊達な学生生活を満喫できない状況が続いていますが、学生全員が参加する行事で学生の笑顔を見ると、教職員も嬉しくなります。また、今年度の卒業・修了式も、阿南市文化会館夢ホールに卒業・修了生全員に加え保護者の方々も一堂に会して、３年ぶりの集合形式で実施します。教育の質を上げ、学生の成長を促すためにも、科学的根拠に則ってコロナ禍前の学生生活を早期に取り戻すことができればと思います。

さて、2022年は高専制度創設60周年にあたり、今年４月には阿南高専創立60周年を迎えます。この記念の年を迎えるにあたり、60周年記念誌の発行に加え、同窓会の皆様と相談しながら講演会等の記念行事を計画しています。また、創立60周年に併せて、明正寮２号館や正門周りの改修工事を行っており、この４月には竣工予定です。この改修は、老朽化が目立つキャンパスを再構築して、学生、教職員、地域企業・自治体を始めとする地域社会の皆様が集いあう中で、学生の自主的な成長を促して、Society 5.0時代を拓くソーシャルドクター養成の基盤となる高専コモンズ実現の一環となるものです。正門周りの改修は、(i) 歩行者と車が分離されておらず危険、(ii) アスファルト舗装の広場で楽しめない、(iii) 学外の方々が訪れる建物が正門から奥まった所にあり、場所が分からない、という課題を、(i) 安全、(ii) 楽しみ満載、(iii) 学外者も場所が分かり、訪れやすい、になるように、多くの学生が協力して策定した計画、フェニックスプロムナードを具現化するものです。

また、昨年５月にリニューアルオープンした図書館棟2Fのラーニングコモンズでも、学生の主体的学びを支える場のデザイン、什器の設計・製作を学生自ら担うことによって実現し、授業のみならず、自習や高学年学生が低学年学生に自主的に教える（ピアサポート活動）場等として活用されています。このような身近な学内の環境整備に始まり企業等の課題解決を図る課題解決型学習を教育の随所に織り込み、１年生からのキャリア教育、コース横断型教育、ACTフェローシップ等と連携した起業家を始めとする種々の講演会、学寮内での教育、さらに反転学習などの最新の教育法を教員自ら率先して用いて、実践的な技術者・研究者を養成している本校の教育は大学では見られない優れたものです。

このような特長を有する、中学校卒業生を対象とする早期工学教育は、国内はもとより世界から注目されています。国内では、若年層の人口減の状況にもかかわらずこの４月には徳島県内に私立の神山まるごと高専が開校、さらに滋賀県野洲市に県立高専の2027年開校にむけた準備が進められています。国外では、アジアのタイ、ベトナム、モンゴルに国立高等専門学校機構の協力により日本型KOSENが設立され、本校もタイに設立された２校のKOSENの連携協力校としてカリキュラム開発、タイ高専からの留学生受入れ、将来はタイ高専への教員派遣も予定されています。また、昨年４月にはタイのチュラポーン王女サイエンスハイスクールから２名の留学生を本科新入生として受け入れ、次年度も継続する予定です。日本人学生に対する留学生の比はまだ小さいですが、考え方の異なる学生と交流することにより、日本人学生も刺激を受けています。

また、数理・データ科学・AIは専門分野によらず必要な基礎事項です。本校では、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に徳島県の高等教育機関で初めて認定（2021年度）された教育を今年度の新入生から全学生に対して始めました。さらにより高度な内容を学生全員が履修できるように準備を進めています。一方で、AI万能とも言われますが、AIでは解決できない課題は数多くあり、これに対して果敢に挑戦できる能力を身につける必要があります。このためには、工学はもとよりその基盤である数学・物理・化学の本質を深く理解して、「仮説を論理的に構築できる能力」が不可欠です。このような能力を育む教育に責任を有する教員には、背景を含めた深い教育を施す能力が必要で、この能力を高める一つの手段として独創的研究を継続・深化させるよう日々努力しています。この一環として、教員グループに学外メンターを加えて研究を行うリサーチユニット制度を2021年度に立ち上げ、成果を出しつつあります。

地域、日本そして世界で活躍する阿南高専卒業・修了生を輩出する使命を果たすべく、今後の社会変革や技術革新に対応する教育改革を継続して実施するとともに、阿南の地に根ざした高専として、地域企業等との共同研究、社会人のためのリカレント教育、さらに小中学校の出前授業を始めとした地域貢献を深化させるよう、教職員一同努力しています。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

飛躍の年へ

同窓会会長
横　手　久　典

新年あけましておめでとうございます。OB、OG の皆様方には、悠久同窓会活動にご理解、ご協力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。今年こそ、疫病に惑わされることなく前進できる年となることを信じ、兎のように飛躍を成し遂げたいと思っております。卒業生の皆様方の変わらぬご協力を今年もお願い申し上げます。

昨年は、３年ぶりに８月12日に悠久同窓会の総会が開催されたのですが、会長である私自身がコロナに感染し、出席することができず皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしました。この場をお借りして謝罪申し上げます。また 10 月 22 日には、悠久同窓会関東支部の総会に久々に参加させていただき、温かくお迎えいただきましたこと厚く御礼申し上げます。久しぶりに寺沢元校長にもお会いできて楽しい時間を過ごすことができました。関東支部高橋会長、喜多前会長をはじめ会員の皆様、本当にありがとうございました。

さて、本年は、我々の母校阿南高専が開校 60 年目の年となります。現在、学校側と後援会、ACTフェローシップ、悠久同窓会の外部３団体と記念行事についての協議を始めるところであります。悠久同窓会としましては、あくまでも学校主導の 60 周年事業と捉え、ほかの２団体と協力し、事業成功に同窓会としての責務を果たす所存であります。今秋くらいの開催となる予定（未定）ですので皆様にもご支援ご協力お願い申し上げます。このように、昨年より後援会との連携を深めることができ、ACT フェローシップとともに外部支援３団体の密なる協力体制が整いつつあります。後援会会長も阿南高専 OB の西浦氏（27S）であり、同窓会への後援会からの要望についても保護者のご意見を総括し前向きなご提言をいただいております。悠久同窓会の目的事業を保護者に説明していただいたうえで、「１．就職した地域での相談室の設置」「２．U ターン学生の転職サポート」「３．悠久同窓会フラッグの制作」などの要望をいただきました。同窓会が組織され 55 年になりますが、後援会から要望をいただくのは初めてのことと思います。私共としましても、後援会のご要望に応えられるよう議論を重ね、具現化させたいと思っております。また、昨年の蒼阿祭では、後援会の計らいで全学生を対象に卒業後の将来に対するアンケートを実施、学生たちの社会に出てからのサポートを OB、OG に求める学生が多いことを知ることができました。このアンケートの結果は、我々にとって大変うれしい結果であり、悠久同窓会の必要性を実感するものでした。悠久同窓会の存在すら知らなかった学生がほとんどであった５年前をおもえば大きな前進であります。後援会との連携は重要であり、ACTフェローシップを含めた外部支援３団体の足並みをそろえることは、母校発展に大いに貢献できるものと信じております。

記念すべきこの年に「神山まるごと高専」も４月に開校、一期生を迎えます。全国的にもこの新高専がマスコミにも取り上げられ、「高専」の名称が以前にもまして、知られることとなり、有難いことと思います。阿南高専とは、教育目的や教育方針も異としますが、徳島県内の高専として切磋琢磨しながら発展していくことを願う次第であります。私たち卒業生も 38 高専の OB、OG としてしっかりとした同窓会運営そして、母校支援により一層の努力をすべきと考え、新高専の手本となれるよう頑張るつもりであります。新高専の開校を心からお祝い申し上げます。

悠久同窓会も兎のごとく跳ね上がる飛躍の年にそして皆様のご健勝、ご活躍を心よりお祈りいたします。

学校だより

時勢に合った教育

教務主事
松　本　高　志

悠久同窓会会員の皆さま、新春のお慶びを申し上げます。今年度より教務主事を務めております電気コースの松本高志です。よろしくお願いします。

昨今は計算機の進化によりこれまで扱えなかった問題も解けるようになり、また情報通信技術の革新により大量のデータを扱えるようになりました。そして、ビッグデータとAIの普及によって、いわゆるIT企業だけでなく様々な産業においてビジネスのあり方が大きく変化してきています。Society 5.0社会に向けては一部の情報技術者だけではなく、多くの人がデータサイエンス・AIの基本を理解しなければなりません。このような背景から全コースに新しい関連科目を追加しています。

日本経済の成長を促し、社会的な課題にアプローチし解決するためのスタートアップ人材（起業家の卵）の育成が不可欠であり、特に優れた技術力と柔軟なアイデアを有する若い人材である高専生は期待されています。本校では、昨年度からアントレプレナーシップ教育の一環として、ACT起業塾を開催しています。ACT起業塾は、大きく変化する現代に何を学ぶべきか迷い悩む学生のため、阿南高専OBOG等の中で起業し、新しいビジネスに挑戦している先輩にお越しいただき、少人数での集中的なディスカッションを行うプログラムです。この他にも外部の起業家育成プログラムに参加したり、本校において講師を招いてアントレプレナーシップ教育プログラムを実施したりしました。

グローバルエンジニア育成に向けた国際交流について、オンライン交流はできましたが、今年度もコロナ禍の影響から学生の海外派遣について、従来のようにはできませんでした。一方、今年度からタイ王国のチュラポーン王女サイエンスハイスクールの学生２名をタイ政府奨学金留学生として１年生から受け入れています。さらに高専機構のタイ高専プロジェクト校に参画していることからタイ高専からの３年次編入も増えました。留学生と日本人学生のキャンパスにおける交流を期待しています。次年度は従来通りの海外派遣と短期留学生の受入再開により、いっそうのキャンパスグローバル化を目指します。

令和４年度入学検査から推薦検査の定員を100名として実施しています。優秀な入学生を推薦検査で受け入れられるようになっています。一方、15歳人口は減少傾向であるため、早期に理系に興味を持ってもらえるよう小中学生を対象とした学生主体のSTEAM教育を充実させています。学生たちは、小中学生に教える体験からコミュニケーション力等のコンピテンシーを磨いています。また、より活用してもらえるようオンラインSTEAM教材の開発にも取り組んでいます。また、学生たちは阿南市小中学校教職員向けプログラミング研修にも携わり、GIGAスクール構想を支援するとともに、この体験からもコミュニケーション力等のコンピテンシーを磨きました。学生たちは、専門科目の勉強以外にも様々な体験から多くの学びを獲得しています。

昨年度までアクティブラーニングスタジオ・ノースとして活用されていた学習スペース（図書館棟２階）がリニューアルされ、ラーニングコモンズとしてオープンしました。部屋のデザインやコンセプトおよび家具の製作に学生が参加し、学生自身の手で作り上げました。ここではピアサポーターズクラブが活躍しています。ピアサポートは、「誰もがサポートできる存在、サポートを受ける存在」「誰もが、自分で解決していく力を持っている」「人は実際に人を支援する中で成長する」という考え方に基づいています。学校全体が学生主体で学ぶ空間になれる環境が整いました。

本校が主催する企業研究セミナーは、今年度は対面で実施できました。２日間で約280社にご参加いただきましたが、コロナ禍対策としてブースを広げた結果、収容社数が減り数十社にはご参加いただけませんでした。３年生も将来の就職企業研究のみならず、インターンシップ企業の検討を目的に参加しました。多くの企業から期待されていることを学生たちは実感したと思います。

学生が社会で活躍できる確かな学力を培うとともに、人間力も養える機会を提供できるよう、今後とも努めて参ります。

令和５年が、皆さまと阿南高専にとってより良き一年になりますように。

ラーニングコモンズでの活動

学生の活躍 2022

学生主事
錦　織　浩　文

今年度もまたコロナウイルス感染防止対策を講じながら各種大会が開催されました。ただし、昨年度に比べると、通常の開催方法にかなり戻ったように見受けられます。

今年度は全国高専体育大会の開催当番が四国地区に当たっており、本校はサッカー競技、テニス競技を担当しました。競技のみならず運営においても学生、教職員が力を尽くした一年でした。

加えて今年度は愛好会の活躍が特筆される一年でした。サーフィン競技クラブの3M鳥潟一太さんは、昨年に引き続き、全国レベルのサーフィン各種大会で活躍し、ボウリング競技クラブの3M伊達猛人さんは第77回国民体育大会（いちご一会とちぎ国体）少年男子団体で第４位の成績を収めました。クライミング競技クラブの１年増田心瑚さんは、同じく国体に出場し、徳島県の旗手を務めました。

懸垂幕：ボウリング競技クラブ

その他、各種大会における学生の主な活躍を掲げます（ここでは原稿締切の関係で12月末までの成績とします。より詳しくは本校ホームページをご覧ください）。

○徳島県高等学校春季弓道大会（４月）
男子団体　第３位

○徳島県高等学校ソフトテニス選手権大会（４月）
男子団体　第３位

○国体スポーツクライミング競技徳島県予選会
少年女子　優　勝　増田心瑚（１年）
少年男子　準優勝　山中翔太（１年）

○全日本ジュニア柔道選手権大会徳島県予選
男子60kg級　第３位　花岡　蓮（１年）

○徳島県高等学校総合体育大会（６月）
ソフトテニス　男子団体　第３位
テニス　男子団体　第３位
　　女子団体　第３位
柔　道　男子個人60kg級　第３位　花岡　蓮（1年）
水　泳　男子100 m平泳ぎ　優　勝　炭谷吏皇（２E）
　　男子200 m平泳ぎ　優　勝　炭谷吏皇（２E）
陸　上　男子八種競技　第３位　三居大智（3M）

○徳島県高等学校選手権水泳競技大会
男子100 m平泳ぎ　優　勝　炭谷吏皇（2E）
男子200 m平泳ぎ　優　勝　炭谷吏皇（2E）

○四国地区高等専門学校体育大会（７月）
水　泳　男子50 m自由形　第１位　松本直大（4C）
　　男子200 m背泳ぎ　第１位　炭谷吏皇（2E）
　　男子100 m平泳ぎ　第１位　炭谷吏皇（2E）
　　男子100 mバタフライ
　　第１位　松本直大（4C）ほか
サッカー　団　体　準優勝
柔　道　男子無差別級　優　勝　楠　尊（5 I）
ソフトテニス　男子団体　優　勝
　　女子ダブルス　優　勝 ほか
テニス　男子団体　優　勝 ほか
陸　上　男子走高跳　第１位　大前雄三（4M）
　　男子砲丸投　第１位　坂野翔哉（5C）
　　男子円盤投　第１位　坂野翔哉（5C）
　　女子800 m　第１位　黒田　凜（4C）
バドミントン　男子団体　優　勝
　　男子シングルス　第１位　井上怜嗣（4C）
　　男子ダブルス　第１位

○中国四国国公立大学選手権水泳競技大会（７月）
男子200 m背泳　第２位　松本直大（4C）

○徳島県高等学校夏季テニス大会（７月）
男子シングルス　優　勝　鹿島颯人（１年）

○全国高等専門学校体育大会（８月～９月）
陸　上　女子800 m　第１位　黒田　凜（4C）
テニス　地区対抗女子団体戦　優　勝
水　泳　男子100 mバタフライ
　　優　勝　松本直大（4C）ほか
バドミントン　男子ダブルス　第３位

○日本サーフィン連盟公認志摩市長杯クリーンビーチCUP（９月）
ジュニアクラス　優　勝　鳥潟一太（3M）

○徳島県高等学校新人柔道選手権大会（10月）
男子個人60kg級　優　勝　花岡　蓮（１年）

○徳島県高等学校空手道新人大会（10月）
女子個人組手53kg級　第３位　木内悠美（１年）

○徳島県高等学校柔道選手権大会兼第45回全国高等学校柔道選手権大会徳島県予選（10月）
男子個人60kg級　優　勝　花岡　蓮（１年）

○全国高等学校選抜卓球大会徳島県予選（11月）
男子シングルス　第３位　四宮誠人（１年）

○四国地区高専総合文化祭（11月～12月）
吹奏楽　奨励賞　吹奏楽部
書　道　優秀賞　元木奈々美（4E）
英語スピーチコンテスト　第１位　辻岡健人（3Z）

コンテスト関係、ロボコン、プロコン、デザコンは、今年度は現地での開催となりました。ロボコンは四国地区大会（新居浜高専）で特別賞を受賞、プロコン（群馬）は課題部門でNICT賞、敢闘賞を受賞、競技部門で６位、デザコン(有明)は構造デザイン部門に学生４名が参加しました。

最後に蒼阿祭（高専祭）について。今年度もコロナ禍のため模擬店なしとしましたが、専門展示あり、外部からの入場ありとして行いました。11月５日は前夜祭として有志による体育大会（サッカー、ソフトボール）を行い、６日はフェニックス広場にて軽音野外ライブ、カラオケ大会、ストリートピアノ、吹奏楽などの公演のほか、悠久同窓会の提供により四国大学書道パフォーマンス「はれるや」の

公演を行いました。室内にて専門展示のほか、軽音 LIVE 配信、写真・書道・鉄道研究会展示、演劇動画公開、落語公演、茶道部お茶会、ビブリオバトル、ストリートダンスなど、多数の来場がありました。

これからもいろいろな場面で学生が活躍できるよう支援していきます。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

高専祭：専門展示

高専祭：はれるや公演

高専祭：フェニックス広場

学寮（明正寮）便り

寮務主事
釜　野　　勝

悠久同窓会員の皆様、令和５年新年あけましておめでとうございます。昨年度より引き続き寮務主事を務めております電気コース　釜野　勝です。よろしくお願いします。明正寮ではコロナ禍中ですが、「感染しない／させない、持ち込まない、その中で寮生活を送る」をスローガンに、食堂や風呂・シャワーの利用場所と利用時間の指定、常時マスク着用、換気指導など様々な感染対策を行いながら共同生活しています。

今年度は感染対策のために一時通学協力をお願いした寮生もいる中、361名の寮生（令和４年５月１日現在）でスタートしました。昨年度から復活させている寮内イベントも継続して実施できました。教養講座では１年生を対象に茶道、華道、英会話の実施、また、寮内でクラスターが発生したと想定した緊急時寮食訓練も実施しました。夏季寮祭は今年度もオンライン寮祭として夏季休業期間中を使って実施しました。冬季寮祭ではクリスマスイベントとし全寮生対象にビンゴ大会を行い、また新年には書初め大会も実施しました。その他にも特別講演会、春季・秋季防災訓練、寮内勉強会、寮生校外清掃などを行ってきました。さらに、今年度は阿南警察署生活安全課と連携し、全女子寮生を対象とした不審者対処・防犯講話を新たに実施しました。

教養講座（茶道）の様子

秋季防災訓練（消火訓練の様子）

校外清掃活動の様子

さて、明正寮では以前より報告しておりましたように、２号館の改修を秋より本格的に実施しています。この改修では、本校が以前より取り入れているアクティブ・ラーニング（AL）の概念を拡張した分野横断的能力の効果的な育成を目指した教育プログラムであるトランスフォーマティブ・ラーニング（TL）を取り入れた教育展開を図ることを目的としています。１階に浴室、２階は AL 室や多目的室、３・４階に寮室を設けることで、寮生が様々な活動を行う動（インタラクティブ）領域と生活する静（個別最適化）領域に分けています。また、寮室は４人部屋としていますが、室内で個別化が図れるよう設計もしています。改修後は教育寮としての機能強化を目的とし、低学年・高学年・留学生すべての寮生が学習したり、語学や文化交流もできるスペースを確保しています。さらに、令和５年度より混住型寮（A 棟）の新築も着工予定となっております。関係者の皆様には、引き続きご迷惑などをおかけするかと思いますが、ご理解とご協力をいただければ幸いです。

食堂では寮食堂を担当いただいているコンパス・グループジャパン株式会社のご協力により、保温庫を設置することができました。これにより、常に温かいおかずの提供が可能となり、寮生からも非常に好評です。

２号館改修工事　外装イメージ

混住型学生寮 A 棟の計画案

「高専生の学びを高めるキャンパス創造プロジェクト」に関する事業では、１号館と２号館間の中庭整備計画としてインターロッキングの施工と移動式アースオーブンの製作を寮生とともに行いました。まず、岡山県のパーマカルチャーセンター上籾へ見学に行き、永続可能な循環型の農業に関する考え方や暮らし方、オーブンの製作方法の講習を受けました。その後、冬季休業期間中に、講師の先生と寮生が一緒になってアースオーブンを製作しました。なお、材料には地元企業より提供された砂利や砂、古民家の土間土を使用しています。

寮食堂内に設置された保温庫

アースオーブンの製作

インターロッキングの施工

最後に、外部へのお知らせとして、阿南高専ウェブサイトのお知らせに行事内容を報告しています。お時間がございましたら、ご高覧いただければ幸いです。その他、寮生や寮生保護者様への必要情報等は、manabaやマチコミを通じて連絡するようにしています。今後とも明正寮をよろしくお願いします。

パーマカルチャーセンター上籾見学

一般教養便り

一般教養主任
藤　井　浩　美

令和４年４月、タイからの留学生２名を含む新入生162名を迎え新学期がスタートしました。これまでも毎年、複数名の留学生を受け入れてきましたが、本科１年生に留学生を迎えるのは初めてのことでした。留学生たちは慣れない日本の文化・習慣そして言葉の壁にぶつかり、時に不安を覚え戸惑うこともありましたが、グローバル推進室のサポートをはじめ、クラスの仲間や先輩たちに支えられ、入学から数ヶ月経った今では留学生という特別な存在ではなく、本校の一学生として日々の学校生活に馴染み、仲間たちに溶け込んでいます。単なる語学（英語）学習に止まらない、言葉や文化の違いを超えた人と人の交流・絆が生まれており、本校のグローバル化の一層の推進に繋がりました。

SHR 風景（１年）

櫛田先生・勝藤先生と

一般教養教員の主な校務について報告いたします。

国語は坪井泰士先生（教科主任）、錦織浩文先生です。

坪井先生　　寮務主事補
錦織先生　　学生主事

数学は櫛田雅弘先生、田上隆徳先生（教科主任）、山田耕太郎先生、西森康人先生、浮田卓也先生です。

櫛田先生　　１年４組担任
田上先生　　２年電気コース担任
山田先生　　学生主事補、２年情報コース副担任
西森先生　　２年機械コース担任（学年主任）
浮田先生　　２年建設コース担任

英語は勝藤和子先生、谷中俊裕先生、プロワント先生、福井龍太先生、藤井（教科主任）です。

勝藤先生　　２年化学コース担任
谷中先生　　寮監、２年建設・化学コース副担任
プロワント先生　　１年２組副担任
福井先生　　１年２組担任
藤井　　一般教養主任、１年１組副担任

理科は松尾俊寛先生、山田洋平先生（教科主任）、園田昭彦先生です。

松尾先生　　学生相談室長、１年４組副担任
山田先生　　教務主事補、２年機械コース副担任
園田先生　　１年１組担任

社会は藤居岳人先生、今田浩之先生（教科主任）です。

藤居先生　　図書館長、１年３組担任（学年主任）
今田先生　　２年情報コース担任

体育は新井　修先生（教科主任）、中島　一先生です。

新井先生　　副学生主事、２年電気コース副担任
中島先生　　教務主事補、１年３組副担任

次に令和４年度の一般教養の人事について報告いたします。10月に山田洋平先生が講師から准教授へと昇任いたしました。山田先生は分析化学を専門分野としており、科学研究費補助金を継続的に獲得されるなど研究活動に熱心に取り組まれています。また、今年の３月をもちまして櫛田雅弘先生と勝藤和子先生が定年を迎えられます。櫛田先生は平成元年に着任されて以来、34年の長きに渡り本校の数学教育を担ってこられました。温厚で親しみやすく、豊かな学識で尊敬される先生でした。勝藤先生は平成17

年に英語教員として着任され、平成22年には本校初の女性教授に昇任されました。その後は、広報情報室長や学生主事を務められるなど、そのご活躍ぶりはまさに働く女性のロールモデルでもありました。両先生のこれまでのご貢献に感謝するとともに、今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

最後になりましたが、一般教養は今後も低学年を中心とした学生への充実した教育活動を展開していきたいと思います。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

機械コース便り

機械コース主任
西　本　浩　司

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度の機械コース主任を務めさせていただいています西本です。どうぞよろしくお願いいたします。

機械コースの近況についてご報告させていただきます。まず人事ですが、大北裕司先生が令和４年４月１日付で教授に昇任されました。次に今年度の機械コースにおける主な担当ですが、西野精一先生は学生主事補、原野智哉先生は学科長、大北裕司先生は副教務主事、奥本良博先生は５年生担任と就職担当およびキャリア支援室長、川畑成之先生は３年生担任と進学担当、松浦史法先生は４年生担任と総合情報処理室長、安田武司先生は３年生副担任とグローバル推進室長、伊丹　伸先生は寮務主事補を担当しております。なお、西野精一先生は令和５年３月末でご定年を迎えられます。

教職員の活動状況ですが、川畑成之先生がコース横断型PBL授業であるTL（Transformative Learning）の取り組みおよび高専ロボコンの主担当として、学生に対するものづくり教育および本校の学校運営における広報活動としての多大な貢献が認められ、高志賞を受賞されました。また、立石学技術専門職員においては、機械工作実習教育の質の向上と学生の技術力向上に努め、本校教育の発展への貢献が認められ、高志賞を受賞されました。次に学生の活動状況として、専攻科創造技術システム工学機械システムコース２年の佐野翔影さん（西野研究室）が、日本材料科学会四国支部第30回講演大会において、「摩擦かくはん接合したアルミニウム合金A5052-H材およびO材の強度評価」の題目で発表を行い、優秀講演発表賞を受賞しました。また、技能検定・機械検査の実技試験において優秀な成績を収めたことから、「第47回 徳島県職業能力開発促進大会」にて、本科３年の乃一真さんが優秀技能士知事表彰を、武市航征さんが優良技能士表彰を受賞しました。本資格取得に当たっては、立石学先生の熱心なご指導によるものであり、これまでに機械検査３級では47名を合格に導き成果を上げています。

日本材料科学会四国支部第30回講演大会で優秀講演発表賞を受賞

優秀技能士知事表彰と優良技能士表彰の受賞

さて今年度の卒業予定者は37名であり、26名が就職、11名が進学予定です。具体的には、大塚製薬㈱、㈱大塚製薬工場、大鵬薬品工業㈱、日亜化学工業㈱（４名）、四国化工機㈱（２名）、㈱酉島製作所、川崎重工業㈱、日本車輌製造㈱、スズキ㈱、三洋化成㈱、関西電力㈱、㈱クボタ、三菱電機ビルソリューションズ㈱、㈱ミスターマックス・ホールディングス、オークマ㈱、SUBARUテクノ㈱、森永乳業㈱神戸工場、日本海洋掘削㈱、㈱JALエンジニアリング、㈱デンロコーポレーションとなっています。進学先は、本校専攻科（７名）、九州工業大学、神戸大学、豊橋技術科学大学（２名）となっています。

例年、機械コースでは２年から４年の各学年で研修旅行を実施しています。今年度もコロナ禍は続いていますが、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、９月１日～２日に２年生を対象とした研修旅行（グリコピア神戸、神戸国際フロンティアメッセでの産業総合展示会および人と防災未来センターの見学）を、11月２日には４年生を対象とした水力発電所（川口ダム自然エネルギーミュージアム）の見学を実施しました。また、令和５年２月20日～22日には３年生を対象とした研修旅行（宇宙航空研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構、ANA機体整備現場見学）を予定しています。

機械コース２年　工場見学研修旅行

機械コースは、よりよい教育を目指して教職員一同力を尽くしていますので、今後ともご支援ご協力をお願い致しますとともに、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

電気コース便り

電気コース主任
小　松　　実

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度から電気コース主任を務めています小松です。よろしくお願いいたします。

まず今年度のスタッフの異動についてご報告します。小林美緒先生が高専機構本部事務局准教授国際参事補として赴任されました。また、長岡技術科学大学に赴任されてい

た藤原健志先生が帰任されました。内野翔太先生には、引き続き小林先生の代替教員として実験実習だけではなく講義も担当してもらっています。松本高志先生は副校長（教務）・教務主事、中村雄一先生は自己点検・評価委員長、専攻科担任、就職担当、長谷川竜生先生は地域連携・テクノセンター長、副教務主事、釜野　勝先生は寮務主事、藤原健志先生は4E担任、インターンシップ担当、香西貴典先生は学生主事補、朴　英樹先生は3E担任、進学担当となっています。

電気コースの近況についてご報告いたします。まず、平成30年から開始した電気コース２年生から５年生で行っている電気技術イノベーション実習（起業・就業体験）について５年目を迎えました。令和２年からの３年間は三菱みらい育成財団の助成を受けたことで電力、電子、ロボット、AI・IoT、eスポーツなどの模擬会社が起業し充実した内容となっています。ここ数年コロナ禍で実施できていなかった中学生体験入学、高専祭電気専門ブースなど、各社で企画・運営しました。今後は地元企業と連携し、授業内で企業の方と一緒に取り組むことを計画していますので、ご協力をよろしくお願いいたします。また、令和４年11月に日亜化学工業株式会社から、光・半導体技術者育成に対する教育支援として、多大なご寄附を頂きました。光・半導体技術者育成の取り組みは、令和元年に株式会社レーザーシステムからフェムト秒レーザーをご寄附いただいたことを起点として、電気技術イノベーション実習内にレーザー関連会社が設立され２年生から最先端レーザーに触れる機会となっており、早期から光・半導体分野を意識したものとなっています。昨年度から本格的にレーザー加工機開発の加速および高度化のために株式会社レーザーシステムとともに徳島県地方大学地域産業創生交付金事業に取り組んでおり、この中でも日亜化学工業株式会社から継続的にご支援をいただいております。このように、現在日本の最重要課題とされている光・半導体産業に関する人材育成に地元企業とともに力を入れています。さらに、小学生、中学生に対して理工系へ興味を持ってもらう啓発活動にも積極的に取り組んでいきます。

今年３月の卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。卒業予定者のうち、約７割が就職、３割が進学となりました。就職先企業として、県内では、大塚化学㈱、大塚製薬㈱、㈱大塚製薬工場、大鵬薬品㈱、㈱テクシード、東亞合成㈱徳島工場、パナソニックエナジー㈱徳島工場、

SEMICON JAPAN 阿南高専ブース（電気コース３年生２名、香西教員、尾崎技術職員）

フェムト秒レーザーを活用した微細加工システムの開発（卒業研究）

県外として、㈱NTTファシリテーズ、沢井製薬㈱、四国電力㈱、㈱ソフトサービス、中国電力㈱、中部電力㈱、日本原子力発電㈱、パナソニックコネクト㈱、㈱日立ビルシステム、本州四国連絡高速道路㈱、三菱地所コミュニティ㈱、三菱電機ビルソリューションズ㈱、三菱電機プラントエンジニアリング㈱、㈱四電工となっています。進学先として、阿南高専専攻科、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、京都工芸繊維大学、徳島大学となっています。

電気コースでは、学生の専門技術の修得とともに社会人基礎力の育成にも努めています。今後ともご支援ご協力をお願いいたしますとともに、悠久同窓会の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。

情報コース便り

情報コース主任
福　田　耕　治

悠久同窓会会員の皆様、昨年度より情報コース主任を務めております福田です。新型コロナ感染による学校活動への影響はありますが、少しずつ以前の活動状況に近づくことができていると感じています。

そういった状況の中、高専祭が１日間限定で開催され情報コースの専門展示も実施されました。今回は模擬店がなかったこともあり、管理棟の教室を利用することができました。４年生はAI対局オセロ、ドローン操縦体験、VRゲーム体験等、多数の体験型テーマを展開し、多く体験をすると景品がもらえるといった企画を実施しました。この展示は、写真にあるように非常に好評で来場者が教室であふれるような状況でした。

高専祭　専門展示の様子

学会発表においても、計測自動制御学会四国支部学術講演会が愛媛大学主管でリモート開催されました。今回は四国地域の大学および高専から全46件の発表がありましたが、情報コースおよび専攻科学生の発表は15件と、全発表の30%を超える発表実績を残しました。その中で、情報コースを卒業した専攻科学生である仁木琉聖君が「魚群行動解析のための群集トラッキング手法の開発」という発

表で優秀講演賞を受賞しました。発表件数もさることながら、このように賞を受ける研究があることはコース全体の研究活動の高い活性度を示していると考えています。

プログラミングコンテストは、２チームが全国大会に出場を果たし、うち１チームがNICT賞を受賞しています。この賞の副賞は、起業家甲子園への参加と活動のサポートが受けられるものとなっており、現在受賞した3Iの学生を中心に活動しているところです。

また、昨年度新設・実施された「事例研究２」では、AI、ネットワーク技術、VR、IoT、ドローン制御など、学生の興味を考慮したテーマが教員陣から提示され、学生は希望するテーマを選んでグループを形成しておよそ５か月間活動しました。この科目は学生・教員の双方から好評を得ています。

５年生の進路状況は、日亜化学工業㈱、アイフォーコム㈱、アクセンチュア㈱、㈱STNet、NECソリューションイノベータ㈱、㈱NSD、NTT東日本グループ、サントリープロダクツ㈱、セコムトラストシステムズ㈱、ソフトバンク㈱、第一工業製薬㈱、㈱ハイマックス、㈱メイテックフィルダーズ、㈱メンバーズ、㈱USEN-NEXT HOLDINGS、より内定を頂き、豊橋技術科学大学、関西大学、徳島大学、本校専攻科、などに合格しています。

各先生は昨年度と同様の校務を担っていますが、その近況を紹介します。田中先生は、副校長をはじめこれまでに学校運営に直接かかわる役職を歴任されましたが、本年度で定年により退職となります。今後も２年間は嘱託教授として授業を担当されることになっております。杉野先生はリサーチユニット長として、研究ミーティングの実施や施設整備を通して研究活動活性化に取り組んでおられます。吉田先生は５年担任および就職担当を担いながら環境センサを利用する取り組みを継続しておられます。福田は主任および３年生の担任を担うとともに、コースとして各種イベントにVR体験による参加をしました。岡本先生は専攻科長補佐として専攻科学生を含めた運営全般を担っています。福見先生は、広報情報室長として、多くの中学校に対する説明会実施をはじめ大型商業施設でのイベント実施など、広報活動に精力的に取り組まれています。安野先生は４年生担任および学生相談室相談員として、学生の勉学面でのフォローや相談対応、さらにはスクールカウンセラーとの連携による多様な学生のフォローなどに取り組んでおられます。平山先生は、キャリア教育およびコーオプ担当として、学生のインターンシップ実施や進路に関わる指導をされています。太田先生は学生主事補、３年副担任、プロコン主担当を担うとともに多くの情報系科目を担当しており、新しい情報コースのカリキュラム構築など、今後のコースを担う中核として期待されるところです。

イベントでの情報コースブース

以上のように、情報コース教員一同、より一層の教育・研究・広報の充実を目指し、日々取り組んでおります。悠久同窓会会員の皆様におかれましては、今後もご支援ご協力をお願いいたしますとともに、さらなるご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

建設コース便り

建設コース主任
森　山　卓　郎

悠久同窓会の皆様、今年度、建設コース主任を仰せつかっている森山です。よろしくお願いいたします。

建設コースのご報告として、まず教員の近況についてご報告いたします。昨年４月にコンクリート構造と維持管理工学がご専門の角野拓真先生が着任されました。企業での勤務経験も活かしながら瀬戸大橋など、県外への学生の現場見学なども積極的に企画され、新風をもたらしています。昨年１月付けで長岡高専に転出した川上周司先生の後任として、昨年10月に環境工学がご専門の景政柊蘭先生が着任されました。約１年欠員があった環境工学の教員としてだけでなく、学生にとっては非常に年が近く、特に女子学生には色々と相談相手になっていただけることも期待されます。

また、昨年３月には笹田修司先生と堀井克章先生が定年でご退職されました。堀井先生は引き続き今年度も嘱託教授として、授業などを担当されています。一昨年３月に退職された松保重之先生も、引き続き嘱託教授として授業などを担当されていますが、今年３月でその期間は終了となります。教員の世代交代が進み、卒業生の方々には寂しく感じられるかもしれませんが、次の時代の建設業界を担う人材育成のため、最新の知識や技術を有する新進気鋭の先生方と共に、今後も学生教育などに尽力してまいります。

今年度の教員の校内役職としては、5C担任と進学担当を吉村　洋先生、4C担任とインターンシップ担当を多田　豊先生、3C担任と就職担当を加藤研二先生、専攻科２年担任を長田健吾先生、教務主事補と3C副担任を井上貴文先生、寮務主事補を角野拓真先生が担当されています。学生主事補は森山が兼務しています。加藤先生は広報情報室副室長として学校全体の広報活動に尽力し、多田先生は本校で今年度開講した「建設業リカレント講座」においても尽力されています。

今年度の学生の進路状況としては、就職が17名、進学が６名で、全員の進路が決まっています。就職先としては、

国土交通省（２名）、鴻池組、IHI インフラ建設、新日本建設、西日本高速道路、西日本高速道路メンテナンス関西、西日本高速道路エンジニアリング関西、近畿日本鉄道、三菱地所コミュニティ、日本オーチス・エレベータ、東京水道、フジタ建設コンサルタント（２名）、ニタコンサルタント、エスシー企画、ナイスリフォームです。進学先としては、阿南高専専攻科（３名）、徳島大学、長岡技科大、豊橋技科大です。

コース内の行事としては、毎年恒例に行っている徳島県技術士会出前講座を昨年６月に実施しました。最近はコロナのため参加者の人数を減らしていただいて縮小した規模で実施していましたが、今回は以前のような大勢参加されるスタイルに戻して実施しました。３年生と４年生を対象に実施し、来訪した総勢 20 名の技術士の方々から進路決定に向けて、学生１人１人に有益なアドバイスなどをしていただきました。

昨年の５月と７月と 10 月にイオンモール徳島で開催された本校のイベントに、建設コースも参加しました。建設コースは、「ペーパーブリッジをつくろう」などのテーマを実施しました。当日はスタッフとして参加した建設コースの学生らが来場した幼稚園児や小中学生の紙の橋づくりのサポートなどの対応をしてくれました。来場した子供だけでなく、その保護者の方にも紙の橋の製作に夢中になっていただきました。

昨年 12 月には、福岡県大牟田市で開催された第 19 回全国高等専門学校デザインコンペティション（高専デザコン）には本校からも参加しました。井上先生指導のもと、構造デザイン部門に 5C の２名と 4C の２名の学生で構成された１チームが参加しました。紙で作成した橋梁模型の強度や軽量性、デザイン性で他の高専のチームと競いました。残念ながら入賞は叶いませんでしたが、善戦しました。高専デザコンは、2024 年には阿南高専を会場として開催される予定です。日本全国の高専の参加者だけでなく、モンゴルなどの高専の参加者も受け入れて各部門で競技を行うため、現在建設コースの教職員らを中心に準備を進めています。デザコン以外にも、各種イベント参加や学会での研究発表など、学生の学外での活動も積極的に行っています。

今後も建設コースにご支援のほど、よろしくお願いいたします。

イオンモール徳島でのイベント

化学コース便り

化学コース主任
中　村　厚　信

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度より化学コースの主任を務めております中村です。どうぞよろしくお願いいたします。

化学コースは昨春、三期目の本科卒業生を送り出しました。今までの卒業生同様、県内外の企業等に就職した学生はそれぞれの就職先で活躍し、また大学や専攻科に進学した学生も、引き続き勉学と研究に励んでいます。さらに専攻科応用化学コースも、皆様のご協力を頂き、第一期生を無事、修了させることができました。第一期生は学位授与機構による小論文試験を受けましたが、全員合格して学位が授与されました。現在就学中の２年生も先日、小論文試験を受け、今は結果待ちの状況です。今年度から特例適用専攻科の専攻区分「応用化学」の申請ができるようになりましたので申請を行い、先日、適の結果が通知されました。これにより、現在の１年生からは他コースと同様に小論文試験を受けることなく、学位が授与されることになりました。

ここで、化学コースの近況についてご報告させて頂きます。先ず人事ですが、小西智也先生が令和３年１月付で教授に、鄭　涛先生が同じく令和３年１月付で准教授に昇任されました。さらに上田康平先生が、令和３年４月付で着任されました。次に今年度の化学コースにおける主な担当ですが、西岡　守先生は化学コースの産学連携、吉田岳人先生は５年生担任、大田直友先生は３年生担任、小西智也先生は専攻科長、大谷　卓先生は学生主事補と就職担当、鄭　涛先生は教務主事補、上田康平先生は寮務主事補と３年生副担任、杉山雄樹先生は４年生担任と進学担当をしております。なお、一森勇人先生は令和４年３月末でご定年を迎えられました。

第四期生 21 名の進路状況をご報告させて頂きます。就職者は 15 名で、大塚製薬㈱２名、森永乳業㈱神戸工場２名、㈱大塚製薬工場、東亞合成㈱、大鵬薬品工業㈱、出光興産㈱、DIC ㈱、日本たばこ産業㈱、三菱ガス化学㈱、住友化学㈱、ユニチカ㈱、キャノンメディカルシステムズ㈱、西部日警㈱より内定を頂けました。また進学者は６名で、本校専攻科応用化学コース、九州大学工学部応用化学科、岡山大学理学部化学科、神戸大学理学部化学科、大阪大学自然科学科応用化学科目に進学する予定です。従来同様の進路確保ができたことは、化学コース卒業生、さらには悠久同窓会会員の皆様の多大なご支援・ご協力の賜物です。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

本年度も新型コロナウイルスの感染が懸念されていましたが、夏休み後の一時期を除いてどうにか対面授業を行うことができています。また中学生一日体験入学も、従来とは少し違うスケジュールでしたが実施することができ、コ

化学コース　ポスター

ロナ禍以前の状況に戻りつつありました。しかし現状ではまた、オミクロン株の感染拡大が懸念され、今後の授業や卒業式がどのようになるかが不透明な状況となっています。このようなときでも、学生達は勉学や課外活動、また就職・進学の準備を頑張っていますので、昨年同様のご協力をお願い致します。

教育や研究では、地域の企業、機関、団体様、及び多くの方々のご寄付により建てられた創立50周年記念材料工学棟の中の装置類や、日亜化学工業㈱様のご寄付によるNMR（核磁気共鳴）装置を使わせて頂いています。なおこれら評価・分析機器類は、地域企業等の方々がご利用して頂くことも可能です。

最後になりましたが、化学コース教職員一同、教育・研究活動を一層、充実させていきたいと思いますので、ご支援ご協力をお願い致しますとともに、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

広報情報室より

広報情報室長
福　見　淳　二

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。広報情報室長を務めさせていただいております情報コースの福見です。よろしくお願いいたします。

令和４年度もコロナ禍での制約を受けながらも広報活動を継続することができました。これも、関係する教職員の方々のご協力によるものであると深く感謝しております。

毎年５～６月に実施している高専説明会は徳島会場、淡路会場で無事開催することができました。特に、5月21日、22日に開催した徳島会場での高専説明会は、今年度からイオンモール徳島での開催となり、２日間に渡り県外からの参加者も含め92組176名の中学生および保護者の参加がありました。また、同時開催した阿南高専ものづくり体験イベントにも多くの家族連れの参加があり、参加者は本校学生指導のもと各コースのものづくり体験に楽しく取り組んでいました。

９月～11月には入試説明会（徳島会場、西部会場、淡路会場、阿南会場）を実施しました。入試説明会全体ではのべ239名の参加があり、阿南高専に興味を持っていただいている中学生や保護者の多さに手ごたえを感じています。

また、出張や旅行の際にご覧になった方もおられるとは思いますが、高専ロボコン2020全国大会に出場した阿波踊りロボット「Awa Dancers」が徳島阿波おどり空港ロビーにて今年度より常設展示されています。８月１日～８月31日の期間には、徳島県庁１階県民ホールにも展示されました。さらに、９月30日～10月７日までの８日間、羽田空港第１ターミナルギャラクシーホールにて開催された「四国八十八ヶ所霊場会公式　一日で巡る四国八十八ヶ所　お砂踏み羽田空港」において「JALふるさと応援隊」の展示物としても展示されました。同時に、徳島阿波おどり空港の搭乗待合室の座面背面にも阿南高専の広告を今年度より設置しています。これは、ACT企業から寄附金をいただきACT企業と阿南高専が共同で設置した広告となっています。空港を利用される際にはぜひご覧ください。なお広告は何パターンかありますので、ぜひ全種類ご覧ください。

県庁での展示

羽田空港での展示

昨年度より、本校に興味のある中学生やその保護者に、本校学生の課外活動の様子を直接見学していただく「放課後オープンキャンパス」を開催しています。本校学生がガイドとなり、中学生や保護者に施設・クラブ活動などを自由に見学していただく取り組みです。今年度は10月13日～12月８日までの計５回実施し、24組53名（昨年度：12組23名）の参加者がありました。

今年度初めての試みとして、東京（６月19日）と大阪（７月17日）で開催されたKOSEN FES 2022（国公私立高専合同説明会）にも参加し、高専に興味のある県外の中学生と保護者に向けて阿南高専の魅力をアピールしてきました。大阪会場で本校ブースを訪れ、その後阿南高専の入試説明会にも参加してくれた中学生もおり、今後は特に京阪神での広報活動にも取り組んでいきたいと考えています。その際には、同窓会の皆様にもぜひお力添えをお願いしたいと存じます。今後も阿南高専の魅力をアピールするイベントなどを積極的に開催していきますので、よろしくお願いいたします。

専攻科より

専攻科長
小　西　智　也

悠久同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。昨年度に続き令和４年度も専攻科長を拝命しております小西と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

専攻科は、学科における教育の基礎の上に、更に高度な専門的知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的としています。専攻科課程を通して、専門分野に関する確固たる知識をベースとしてもち、その方法論･実践力を、幅広い工学分野を対象として創造的に活用できる技術者の育成を図っています。現在、創造システム工学専攻の１専攻であり、機械システムコース（AM）、電気電子情報コース（AE）、建設システムコース（AC）、応用化学コース（AZ）の４コースから構成されています。

創造システム工学科の１年生はAMが４名、AEが10名、ACが２名、AZが２名の18名が在籍し、1AM・1AC・1AZの担任は杉山雄樹先生、1AEの担任は中村雄一先生が担当しております。また、２年生はAMが６名、AEが９名、ACが１名、AZが１名の17名が在籍し、2AM・2AZの担任は長田健吾先生、2AEの担任は岡本浩行先生が担当しております。１年生は、創造設計工学演習でコースをまたぐ幅広い学習に取り組むとともに、とくに今年度は環境工学特論で特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金、道の駅くるくるなると、㈱あわえ、かみかつ茅葺き学校の各企業団体様を訪問し、工学による社会・経済の問題解決が地域や環境と密接に関係している「地域循環共生圏」について現場から学びました。さらに９月からの３ヶ月のインターンシップ期間ではこれまでの学習内容をふまえ企業や大学での実践的な活動に取り組みました。12月19日には学生のインターンシップ報告会が対面遠隔ハイブリッド形式で開催されました。ご多用のところACT企業をはじめ多くの国内企業、大学、研究所に受け入れていただき、また感染対策しつつ懇切丁寧なご指導をいただき誠にありがとうございます。

２年生は、これまで高専で学んできたことを総まとめ科目で省察するとともに、その集大成である特別研究論文を完成させました。感染対策のため、特別研究発表会も対面遠隔ハイブリッド形式で開催されました。また、２年生の進路は、奈良先端科学技術大学院大学、筑波大学大学院、SUBARUテクノ㈱、三浦工業㈱、大阪ガス㈱、大鵬薬品工業㈱（２名）、㈱イズミフードマシナリ、中国電力㈱、㈱NSD、㈱ディスコ、㈱USEN-NEXT HOLDINGS、㈱オプロ、西日本高速道路㈱、山本光学㈱、金杉建設㈱、住友金属鉱山㈱となっています。高専で学んだことを胸に、各分野でいろいろな人と関わり合いながら、大いに活躍することでしょう。

専攻科は10年後を見据え、研究力と人間力を兼ね備えるエンジニアを目指すべく、「高専ならではの共創教育」の場を実現したいと考えています。すなわち、専攻科生が他の学生、教員、地域技術者と密接に関わり合いながら、研究を軸とした学びを実践します。そのために、専攻科生が教員や地域技術者とともに一人の研究者として研究活動に参加できるよう、昨年度学内で発足した「リサーチユニット」の一翼も専攻科が担っています。

また、これまでの学習を発展させたい、さらに研究を進めたいという本科生が専攻科への進学を目指してくれるように、広報にも力を入れています。たとえば、昨年度に続き、特別研究論文の閲覧コーナーを設置したり、学修総まとめ科目履修計画書発表会、特別研究発表会をはじめて全学生向けにライブ配信したりしています。

引き続き、未来のエンジニアや研究者を目指す学生の学習・研究を全面的にサポートしてまいりますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、悠久同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

専攻科１年　とくしまコウノトリ基金訪問

専攻科２年　インターンシップ報告会
（ハイブリッド開催）

専攻科２年　特別研究発表会（ハイブリッド開催）
を終えて

会員だより

近況短信

昭和43年度機械　森岡和美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。

新型コロナウイルス感染も８波が押し寄せ、一向に収まる気配がありません。

ロシアのウクライナ侵攻も続いており、暗い年末です。明るいニュースと言えば、サッカーワールドカップで、日本が優勝経験のある強豪、ドイツ、スペインを破り、決勝トーナメントに進出したことでしょうか。念願のベスト８には、今一歩とどきませんでしたが、新しい時代の幕開けを感じさせる大会でした。

早くコロナ禍が終息し、平穏な日常が戻ることを期待いたしたいと思います。

今年も、例年同様、最近の新聞投稿作品から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

【通信Ⅰ】令和４年１月21日　記

日本は核軍縮のリーダーたれ

「核戦争に勝者はない」との共同声明が発表された。非核保有国の宣言かとおもいきや、米国、ロシア、中国、フランス、英国の核保有５か国の声明と聞けば「何の意図で？」と思わず勘ぐりたくなる。

この背景には核拡散防止条約（NPT）の再検討会議がコロナ禍の影響で先延ばしが繰り返され、今回も１月４日の開催直前に４度目の延期が決まったことに起因する。

NPTは５か国に核兵器の保有を認める一方で、この５か国に核軍縮交渉を義務付けている。再検討会議の延期が続き、核軍縮の遅れに非核保有国の不満は年々高まっており、その批判をかわす狙いもあると思われ、この宣言を額面通りに受け取る向きはそう多くはないようだ。

しかし世界で唯一の被爆国としての日本にとって、この宣言はまたとないチャンスである。核軍縮に向け、核保有国との信頼関係をつくり上げ、非核保有国との橋渡しをさらに前進させていくべきだ。核をめぐるすべてのリスクを取り除く唯一の方法は、すべての核兵器を取り除くことであり、そこに軸足を置いた取り組みで、日本は核軍縮のリーダー役となる必要がある。それが核に依存しない独立国家として国際社会から認知される唯一の方途である。

【通信Ⅱ】令和４年１月30日　記

紙は最高の情報媒体

紙（paper）の語源として知られるパピルスは、BC3000年代からAD1000年までの古代エジプト文明において書写材料として発展し、使用されてきました。爾来、「紙は文化のバロメーター」と言われ、文化、芸術、情報伝達など多くの分野で、その活動を支えてきました。

しかしインターネットが普及し電子新聞や電子書籍、電子辞書などのデジタル化が進み、電子メデイアが既存の紙分野に進出し、紙に代わり、結果として紙の役割が後退すると言われています。

日本製紙連合会の資料では、日本の紙（新聞用紙、印刷用紙、情報用紙）の需要は、2010年に13,300千トンであったものが、2020年には、8,500千トンと64%まで減少しています、紙は、今後とも「文化のバロメーター」になり得るのでしょうか？

徳島新聞１月17日付「読者の手紙欄」の若い声で、我が意を得たり、の投稿を拝見しました。中学生の彼女が、「紙書籍のページをめくる音、紙に触れる感触、印刷された文字、すべてに魅力を感じる」と書いています。まさに情報媒体としての紙の価値を表現しています。

今や、電子メデイアに追われている紙メデイアの対応と、棲み分けが進んでいます。「紙書籍が未来でもずっと使われて欲しい」という若い人がいる限り、紙はその特質を生かし、最高の情報媒体としての地位を保ち続けて欲しいものです。

【通信Ⅲ】令和４年３月２日　記

地域のニーズに合った施策を

中山間地で地域おこしに取り組むNPO法人「加茂谷元気なまちづくり会」に所属して事務局を担当している。我々の会のモットーは、「できない理由を言わない。どうすればできるかを考える」ということである。例会時、だれかが新企画の案を出すと、進行担当の事務局長は常に言う。「ほら、ええ案じゃ！どないしてやるで！」いつもこの調子だ。

移住者も例会には、参加してもらっている。我々には無い斬新なアイデイアを持っている。田舎にずっと住んでいる者には持ち合わせないセンスも兼ね備えている。

地区内にある休校中の小学校を活用した、音楽とマルシェのマッチングイベント「カモーン加茂谷かもかもフェスタ」や地区内の10町を順番に巡る手造りマルシェ「ほっこり十町市」も移住者の企画・立案によるものだ。

NPO 団体として、地域の活性化策や要望を行政に行うことがある。窓口では往々にして、「前例がない。他の地域と不公平になる」などと断られることが多い。画一的なルールで公平に全行政区域に適用されるもの（例えば税徴収など）もあるだろうが、市街地から中山間地までと広い行政区域を有する阿南市のようなところでは、画一的な施策ではかえって不公平になる。「地域共生推進」「ふるさと未来」というような冠をもつ部門は、地域特性や地域ニーズにあった施策の企画・立案・実行が必要なのではなかろうか？

【通信Ⅳ】令和４年５月４日　記

動物園に野菜を贈る

阿南市加茂谷地区で地域おこしに取り組む住民団体が店舗内産直市に、野菜や柑橘類の共同出荷をしている。出荷できない葉物野菜の外葉や傷入の菜やミカンなど、特に品質面や味覚面で問題の無いものでも圃場近くの処理場や自宅の山林で処分したりしている。これではもったいないし、鹿や猪、猿の餌場となり害獣を育てることになってしまう。そこで当会の女性部長が廃棄処分していた野菜類を、動物園に動物たちの餌にならないかと相談したところ、喜んで受入してくれることになった。会員にも声がけし、毎月２回ほど回収して動物園に配達している。

そんな折、動物園の職員さんから当会の女性部長に連絡があった。

「高齢でなかなか餌を食べられなかったプレーリードッグが野菜を貰うようになって少しずつは食べるようになって喜んでいました。しかし遂に天寿を全うし天国へ行きました。だんだん食べる量が減ってきていましたが、亡くなる前夜まで食べたのが、加茂谷の野菜（チンゲンサイ）でした。皆さんからいただいた野菜のお陰で、食べたいものを最期までたべさせてやることができて本当に感謝しています」との事だ。

いままで廃棄していた野菜を動物たちに喜んで食べてもらって、食品ロス削減にもつながるし嬉しい限りだ。

【通信Ⅴ】令和４年５月 15 日　記

太龍寺とロープウエイさんの神対応に感謝

阿南市加茂谷地区で遍路宿を営む女将の話である。

「先日、年配の男性遍路さんの予約をお受けしていました。21 番札所の太龍寺のロープウエイまでのお迎えということで、距離も近いし早いご到着だろうと思っていました。時間を見計ってロープウエイで下りてくるのを待っていましたが、なかなか下りてきません。ロープウエイの最終便の５分前に電話すると、『手提げ袋をどこに置いたか分からなくなって探している』とのこと。次が最終便ですと伝えて、最終便で下りてくる人に声をかけるも全員違う。焦ってロープウエイの職員さんに聞いたら、何処においたかわからないので、広い境内をロープウエイの職員さんと太龍寺の方が一緒に探してくれているとのこと。

ロープウエイは運転終了だし、歩いて下りてくる遍路道の方に行って待っているのが良いのか迷っていたら、ロープウエイの職員さんが、『手提げ袋が見つかったそうなので、ロープウエイで下りてきます』と言ってくれた。え？ロープウエイは終わったのにと言うと、『ロープウエイを動かします。上にいる職員が一緒に下りてきます』とのこと。一緒に下りてきた職員さんは、またロープウエイに乗って最終点検のために山頂駅に戻っていきました。本当に太龍寺さんとロープウエイさんの神対応には恐縮し、感激しました。」とのことでした。

【通信Ⅵ】令和４年７月 19 日　記

投票所職員の心配りに感謝

参議院議員選挙投票日の７月 10 日に所用があるので、５日に期日前投票に阿南市役所へ行った。そこで係の職員の心配りに助けられた。というのも昨年 10 月の衆議院議員選挙の時も期日前投票にいったのだが、難儀した苦い経験がある。私は脳梗塞を罹災し、その後遺症で、右手・右足が不自由で、投票用紙に左手で候補者の名前を書こうとしても、右手で用紙を押さえることも出来ず、アルミ製の記載台の上で、用紙が滑りなかなか字が書けなくて難儀した。漢字では書くことができず、ひらがなでミミズのような字を書いたものだ。

投票が終わって家に帰ってから選挙管理委員会に電話して、状況を説明し、何か投票用紙を押さえる文鎮のようなものを準備していただけると有難いと改善案を御願いしておいた。

今回、投票に行って、さて記載台で書こうとすると、職員が「紙押さえの文鎮を使われますか？」と言って、円形の紙押さえを持ってきてくださった。きっと投票用紙交付時の状況などを観察して、右手が不自由で使えないと判断して対応してくれたのであろう。お陰様で用紙が滑ることも無く、漢字で候補者名をキチンと書くことができた。

当日は台風の影響で時折激しく雨が降るあいにくの天候であったが、投票を終えて、心は晴れ晴れとしていた。担当職員の心配りに感謝する次第である。御世話になりました。

【通信Ⅶ】令和４年８月 12 日　記

学校再編は新しい発想で

徳島新聞７月 19 日付け記事では、小中生が少子化の影響で大幅に減少し、2020 年は全国で約 956 万人と10 年より 100 万人減少している。児童生徒数が少なくなって

くると、特に郡部では過疎化も相まって学校の統廃合や休校が加速してきている。法令で公立小中学校は、標準規模が小学校は１学年２～３クラス、中学校は４～６クラス、全学年で 12 ～ 18 クラスと定めている。児童生徒数が少なくなると多数が参加する部活動ができない、クラス替えができないなどの弊害が出てきて学習機会の確保の問題が生じるとしている。

私の卒業した阿南市立大井小学校でもずっと１クラスでクラス替えなどなかったが、それが後々弊害になったという覚えは無い。ただし平成７年３月で休校になった時の全校生徒数は１名で如何ともし難い状況であった。休校になって感じるのは、小中学校が教育だけでなく、地域の文化・体育活動、地域コミュニテイの維持、また防災の拠点機能を有しているということだ。地方創生と言われて久しいが、平成の大合併で、地方が疲弊してきている例は多々みられます。学校再編も単に数合わせでの統廃合を進めようとする行政任せにすることなく、少子化対策も含め、地域住民がどうやって小中学校を地域コミュニテイの拠点として、維持していくかを真剣に考える時がきている。

【通信Ⅷ】令和４年９月 11 日　記

無用の用を知る

「無用之用」とは、無用だと思われているものこそ、実は有用だという主張である。原典は、荘子の「人はみな有用の用を知るが、無用の用を知るものはない」ということだ。荘子は、有用性だけを追い求める一面的な価値観から無用なものまで視野に入れ、多面的な価値観への転換を説いている。ただ､無用の用を知る人が少ないと嘆いている。

卑近な例では、日頃何気なく交わしている挨拶にしても、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、マスクをするようになり、大きな声での挨拶は忌み嫌われるような風潮になり、近所の方とも、目だけでの挨拶だとどうもしっくりこない。日頃、そんなものは無くてもいっこうに差支えないと思っていることが、いざ挨拶できないとなると、それだけのことが、人間関係を円滑にするのにずいぶんと役立っていることに気付くのである。まさに無用の用である。

新型コロナ禍のなかで、密を避け、ソーシャルディスタンスを保つとのことで、ともすれば無用と思われるもので、実は大変人間生活にとって重要なものをやめたり、無くしたりしてしまっているかもしれない。「無用の用」に留意し、心のデイスタンスは密に保ちたいものである

【通信Ⅸ】令和４年９月 30 日　記

良好な人間関係の構築を

今、日本の社会にある様々な不幸な事象の原因は、不満足な人間関係に起因していることが多いと言われます。

では、良い人間関係はどうすれば作り上げることができるのでしょうか。一般的に言われることは、

１．相手のことを理解する心をもつ
２．自分から自分の心を開く
３．相手の話をよく聞く
４．共感する心、受け入れる心を持つ

ことであります。すなわち、良い人間関係はお互いに思いやりを持ち、相手を受け入れて尊重しあえる関係です。「批判する、責める、文句を言う、脅す、罰する」というような言動は、人間関係を悪くします。

良好な人間関係の構築には、「傾聴する、支援する、励ます、受容する、信頼する、尊重する、意見の違いは交渉する」といった言動が望まれます。

このことは、家庭や学校、職場、いずれにも当てはまることでしょう。しかしこれらのことは、SNS やオンライン形式での対話では難しいようです。コロナ禍のなかですが、３密を避け、感染防止対策を講じて、対面方式での対話により、良好な人間関係の構築に心掛けたいものだと自戒しています。

【通信Ⅹ】令和４年 11 月８日　記

オリックス・杉本裕太郎選手の活躍に感激

プロ野球・日本シリーズは、昨年と同じくヤクルトとオリックスの対戦となり、４勝２敗１分で、オリックスが激戦を制し、26 年ぶりの日本一になった。

そして MVP には、阿南市出身のオリックスの杉本裕太郎選手が選ばれた。今レギュラーシーズン中は、打撃不振で、ホームラン王、ベストナインを獲得した昨年のような成績を残せなかったが、セパ交流戦では打撃成績１位となるなど、ここ一番での「短期決戦男」の存在感を示していた。

シリーズ通算打率は、.231 とふるわなかったが、日本シリーズ７戦中３戦でタイムリーを放つなど、ここ一番の勝負強さを発揮した。日本一がかかった第７戦でも５回表に２死満塁でセンターに大飛球を打ち大量得点に貢献し、「短期決戦男」の面目躍如ぶりを発揮した。昨年もチームは負けたが、優秀選手賞を受賞しておりまさにシリーズ男だ。

彼の活躍があのラオウのポーズとともに、「野球のまち阿南」を全国に広めてくれる。杉本選手の大活躍に感激した。来年も頑張って、毎試合あのラオウのポーズが見られることを期待している。頑張れ、杉本選手、阿南の地より声援を送り続けている。

【通信Ⅺ】令和４年 11 月 29 日　記

学校再編は多角的に検討を

小中生が少子化の影響で大幅に減少している。阿南市でも「総合計画」によると０歳から 14 歳までの年少人口は、2020 年１月現在約 8,400 人が、2030 年には約 6,600 人、2060 年には約 3,700 人に減少する見込みとなっている。

こういった状況に鑑み、阿南市でも小中学校の再編計画

が検討されている。児童生徒数が少なくなると多数が参加する部活動ができない、クラス替えができないなどの弊害が出てきて学習機会の確保上問題が生じるとしています。確かに学校運営の効率化、教職員の効率的活用配置といった観点からは、やむを得ない面もあるでしょう。しかし学校には地域コミュニテイや地域防災の拠点といった面もあります。また市周辺部は自然環境に恵まれ、生物多様性スポットも点在し、文化的、歴史的遺産や史跡・遺跡も多く存在しており、貴重な教育資産の宝庫です。こういった教育資産を活用し、教育機会を提供するといった面からも学校の存在は必要です。市街地と周辺部の拠点校をネットワークで結び、交流を活性化し、人数減・クラス数減をカバーし、学校選択制などの導入により、市全体としての学校配置の在り方を多角的に検討して欲しいと思います。市街地だけが光るのでなく、周辺部も小さくてもキラリと光るものがあって、全体として輝く「光のまち阿南」であって欲しいものです。

勝手に書きます！

言いたい放題名作映画紹介

第８回

昭和43年度機械

乾　　寛

この１年を振り返った時、世界情勢に関して最大のできごとはロシアのウクライナ侵攻ではなかろうか。核爆弾の使用をちらつかせながら軍事力で有無を言わさず他国に侵略する暴挙もさることながら、世界平和の砦ともいえる国連が全く機能しない事実を改めて思い知ることになった。この原稿を書いている現在、ロシアの劣勢が伝えられているが、その後の展開はどうなるか予想できない。理不尽な侵略を受けるウクライナ国民はたまったものではないが、それは独裁政権国家の国民にとっても全く同様である。個人の人権は剥奪され、逆らえば投獄され、時には殺されていく。北朝鮮然り、香港然り、ミャンマー然り…。また一方平和国家においても、警察権力による一般民衆への理不尽な暴力的行為があることも事実である。今回は、それらの迫害に対してジャーナリズムがいかに対峙したか、ということを描いた２本の映画を紹介したい。洋画はカンボジアのクメール・ルージュ革命をテーマにした「キリング・フィールド」。邦画は松本サリン事件をテーマにした「日本の黒い夏［冤罪］」である。正義感あふれるジャーナリストが使命感に燃え、危険も顧みず権力に立ち向かって真実を追い続ける姿は、理想的であり、感動的であり、まさに映画の醍醐味である。

「キリング・フィールド」1985 年
ローランド・ジョフィ監督　サム・ウオータースト ン

タイトルの意味は文字通り「虐殺の地」である。ベトナム戦争の末期、米国は隣接するカンボジアにも無差別爆撃を行ったが、その事実を報道するために米国の記者シドニーがプノンペンの空港に到着する。たまたま、その時期にカンボジアで内戦が勃発する。ポルポト率いるクメール・ルージュ（クメールとは部族名、ルージュは赤、いわゆるカンボジア共産党）が政府軍を追い出し、独裁国家を打ち立て国民の大虐殺を行うのだが、それに巻き込まれた記者と現地の通訳兼相棒記者プランとの実話に基づいた友情物語である。米軍の空爆理由や内戦の勃発理由等の説明がなく、政治的背景の事情がつかみきれないが、あくまでジャーナリストの取材活動に主眼が置かれており、感動的な物語に仕上がっている。事実を知るために直接米軍司令部に乗り込み取材するが誰も事実を話さない。爆撃された被災地に行くことも拒まれる。やむを得ず、危険を顧みず単独で現地に飛んで行って事実を取材する。彼らのその行動力の源泉は何なのだろうか。お膳立てをしてもらって情報をもらってもそれは事実ではない。本当の事実は自分の目で確かめなければ分からない。そしてその事実を報道することが記者の使命である、と自覚しているからだろう。忖度ばかりしている日本の大手メディアの記者連中に嫌気がさしている中で、彼らの行動は実に清々しく見える。しかしながらたまたま発生した内戦に巻き込まれ、捕らえられて殺されるリスクも高まる。結局カンボジアを脱出することになるのだが、外国人でないプランは国外脱出できずポルポトに捕らえられてしまう。ここまでが前半のあらすじである。取材中、内戦現場を逃げ回るのだが、あらゆる場面にコカコーラが登場する。避難している倉庫には懐かしい瓶詰コカコーラが木箱に入って積み重なっているが、それらが銃撃を受けて粉々に砕け散る。真っ赤なコカコーラ商標鮮やかなトラックが銃撃を受けて燃えている。アジアの一小国の反乱さえアメリカは抑え込めない、という事実を象徴しているように見える。一方、政府軍の若い兵士は「車はメルセデスが一番」と褒める。海外製品であっても、車はどこの国の若者にとっても魅力的なのだろう。たまたま現場移動に使用していた車がベンツであったので、プランは彼に、物売りから買ったメルセデスのエンブレムをプレゼントする。ベンツのボンネット先端についているスリーポインティッド・スターである。この場面は後に起こる重大な局面での伏線になっている。楽しみのために詳細は伏せておく。

プランの国外脱出を画策する場面は前半の山場である。

カナダ人に化けるために偽パスポートを作成したが、結局失敗に終わる。その経緯は山場のネタバレになるから言わないが、それよりもパスポートというものの存在を改めて考えさせられた。若い頃パスポートを取得し「海外旅行中は命の次に大切なもの」とよく言われた。自分の国籍を証明するものでありその理由は分かるが、それにしてもパスポートは単なる紙っぺらである。どうしても実感がわかない。どこかに置き忘れることもあるし盗まれることもある。国籍は証明できないが、生身の人間であることは誰が見ても明らかである。本来は、世界のどこにいても基本的には安全でいられる、というのが大原則ではないのか。持っていないからといって、そのことだけで人権まで剥奪されるような仕組みはどうしても納得できない（まあ文句を言っても始まらないが…）。結局プランは捕らえられ農村の収容所に送られる。ポルポトは中国の毛沢東が行った文化大革命に倣って、都市の多数の文化人を農村に送って重労働をさせる。特定の少女に権力が与えられ、気に入らない大人を何の根拠もなく殺害させてしまう異常さはまさに地獄である。大人を糾弾した子供紅衛兵とそっくりだ。時に印象深い場面がある。収容所長と思われる人物が「過去に教師、医師等いわゆる知的労働者だった人々は申し出よ。過去は問わない。これから農民として一緒に生活しよう。」と反省を迫るのだが、申し出た人々をすべて殺戮してしまう。タイトルは忘れたが、かつて南米の軍事政権打倒をテーマにした映画の記憶がよみがえった。政治的活動をしていた高校生のグループが捕らえられ、改心しないものは射殺されることになった。こんな理不尽なことは到底許されるものではないのだが、銃殺刑になる直前に何人かは「民主主義万歳（だったと思う）」と叫ぶ。すると、そう叫んだ人間だけ射殺されたのである。人生を反省するにしても、自分の主張を死ぬ直前に叫ぶにしても、その行動は本来の人間性に基づいたものであり、最大限尊重されるべきものだろう。そんな人々をだまし討ちのような方法で抹殺するのは本当に許せない。要するに両者とも、指導者は、何も考えない人々の集団作りを目指しているのである。何のためにそんなことをするのか？人民を家畜のようにして支配するためだろう。もし自分がこんな集団の中にいたらどんな気持ちになるのだろうか？絶望しかないのではないか？しかし、それなりに自由な今の日本の社会も似たような状況ではなかろうか。社会や政治に問題があることを認識しつつも、選挙にも行かないし、忖度して言いたいことも言わない。「言えない」のではなく「言わない」のであるが、無気力集団であることは同じである。何もしなくても何も困ることは起こらない、とぬるま湯を楽しんでいていいのだろうか…。

事実に基づいた映画であるからプランは結局収容所を脱出して生き延びる。この逃避行の中で虐殺現場跡に遭遇するのだが、その場面がこの映画のハイライトシーンでもある。米国に帰っていたシドニーもずっとプランの消息を気にしており、現地で感激の再会を果たす。めでたしめでたしなのだが、何か引っかかる。プランは内戦勃発時に家族と共にアメリカに脱出できたのだが、シドニーに協力するために自分だけあえてカンボジアに残った。プランはなぜそこまでしてシドニーのために働いたのか？もちろんプランにも記者魂というものがあったに違いない。だが、プランは収容所から生還しても自分からシドニーに連絡を取ら

よろず伝言板

悠久同窓会ホームページのお知らせ

昨年度より、悠久同窓会ホームページを開設しました。
各支部のご案内、刊行物（同窓会誌）の閲覧、お知らせなどのコンテンツを用意しております。まだ作成途中ではありますが、今後、卒業生の皆様に情報発信していく予定です。是非ご覧ください。

https://yukyu-dosokai.com/

【阿南高専 HP「悠久同窓会」ページにもリンクを設定しています】

悠久同窓会ホームページには、同窓会誌「悠久」の PDF データを掲載しています。
バックナンバーも含め、WEB 上でいつでも「悠久」をご覧いただくことができます。

今後、冊子で「悠久」の送付を希望されない方は、同窓会事務局までメールでお知らせいただくか、下記 QR コードを読み込み、必要事項を入力してください。

悠久同窓会事務局メール

dosokai@anan-nct.ac.jp

卒業回（卒業年）、所属学科（コース）、お名前と「悠久の冊子送付は不要」の旨ご連絡ください。

悠久同窓会連絡フォーム

悠久冊子送付不要の連絡ほか、住所変更、その他お問い合わせなども、こちらのフォームからご連絡可能です。QR コードを読み取ってください。

なかった。親しい同僚同志なら何よりも先にシドニーに生還したことを連絡するだろう。ましてや生死の境を共にさまよった仲間である。実はプランの心の中に、東洋人の西洋人に対する引け目というか劣等感があったのでは、と考えるのは私がひねくれているからだろうか。コカコーラとシドニーがダブるのである。私自身欧米に出かけるたびに彼らとの体格の差、物おじしない態度等になんとなく劣等感を感じてしまう。シドニーは米国でジャーナリストとして賞を受ける。その時、同僚から「プランがいたから受賞できたのではないか」と辛らつな嫌味を言われる。実はシドニー自身もそのことは認めているのだが、プランには受賞の栄誉のかけらも与えられない。まさに差別そのものが存在していると思わされる。細かいことではあるが、長い逃亡の旅を続けたのにプランの顔にはひげが全く生えておらず、髪の毛も伸びていない。髭剃りや整髪の時間などあるはずがなく、本来ならひげ面で髪もバサバサのはずである。映画制作上極めて幼稚なミスであり違和感満載だ。一方シドニーは大男でありかつ終始立派なひげ面だ。意味ありげな、彼が髭を剃る場面がしっかり挿入されてもいる。こういった描写から想像すると、なんとなくプランが不当に扱われており、文化の差というか国家間の上下差別感が裏テーマとなっているのでは、との思いがぬぐえない。そして何と言っても最後のラストシーンが印象深い。シドニーがプラン生存を知った直後、再びカンボジアに飛びプランに会いに行く。プランはそのことを知らないから、まさにお決まりの大感激再会場面で終わるのだが、会った瞬間のプランの顔は全く無表情なのである。知らない人であるはずがない。また感極まった表情とも思えない。意地悪な見方をすれば「できれば会いたくもなかった」と思ったような表情なのである。やっと20秒経ってプランはシドニーの方へ駆け寄りお互いに再会を喜び抱き合う。素直でない、と言われそうだが、ここにも監督の意志というか小細工が感じられてしまうのである。

ま、いずれにせよ、とりあえずハッピーエンドで終わる。この映画はベトナム戦争や独裁国家の悲惨さと、ジャーナリズムはいかにあるべきか、ということをテーマにしつつ、根深く浸透している人種差別もまな板に載せ、本来あるべき姿である世界人類みな平等ということを訴えているのではなかろうか。エンディングでジョン・レノンの「イマジン」が流れる。「想像してごらん、天国なんてないってことを、国なんてないってことを、いつか君も願ってくれるといい、世界が一つになることを」。

全くの余談だが、この感想を書いている時に大滝先生のことが思い出された。世界史の先生で、最初の授業で「授業時間が限られているからルネッサンス時代から始める」と言われた。先生らしい独断授業であったが、それと同時に「ベトナム戦争はアメリカが負ける、将来中国がアメリカと肩を並べる強国となる。」と当時から喝破されていたように記憶している。

「日本の黒い夏［冤罪］」 2001年
熊井　啓監督　中井貴一　寺尾　聰

1994年にオウム真理教が長野県松本市で起こしたサリン事件に対する報道のあり方と、冤罪と戦った河野さんをテーマにしたドキュメンタリー映画である。熊井啓は社会派映画ではナンバーワンともいえる映画監督で「帝銀事件」「下山事件」「海と毒薬」など昭和の秘史を掘り起こす秀作が多いが、この映画ではオウム真理教自体にはほとんど触れていない。かといって、今回洋画で紹介した「キリング・フィールド」のような正義感むき出しの記者の活躍を描く映画でもない。地元高校の映画部が、事件発生の約１年後に地元テレビ局を訪ねて当時の報道のありかたを取材する物語である。その取材の流れに沿って事件後の報道状況がレビューされ、被害者であるにもかかわらず河野さん（映画では神部さん）が犯人に仕立て上げられていくプロセスも再現される。この映画のテーマは、一言でいえば「冤罪の恐ろしさ」であり、「冤罪は決してあってはならない」ということである。警察取材べったりで特ダネを追いかける記者の現実的な考え方と、理想の記者を思い描いていた高校生の純粋な気持ちとの落差が大きく、中井貴一演じる報道部長がその間に入って話が進んでいくのだが、冤罪の生まれる必然性が次第に明確になっていく。

「報道」とはいったい何なのだろうか。事件を始め様々な出来事を人々に知らせる、ということだろう。当然、政府や警察の発表する内容も報道すべきだろう。では「特ダネ」とはいったい何なのだろうか。他社が報道していないことを自社だけが報道する、ということだろう。記者はその特ダネを求め、夜討ち朝駆けで関係者を取材し、誰よりも早く情報を得ようとする。この映画の中では、河野さんがいつ逮捕されるのか、ということを記者は最重要事項として追い続ける。しかし、どこよりも早く報道する、ということに果たしてどれだけの価値があるのだろうか。いずれ分かることを数時間早く知ったところで読者にそれほどメリットがあるとは思えない。たとえば投資家にとっては世界の政治経済情勢や企業業績は早く入手するメリットはあるだろう。しかし、逮捕された、という情報を早く知って得をする人はいるのだろうか。新元号は発表までは極秘とされ、誰にも情報は漏らさないらしい。平成おじさんとか令和おじさんとして時の官房長官は有名人となるが実に奇妙な話である。秘密にする意味は全くない。次の元号は〇〇である、その次の元号は××である、と事前に決めて発表しておいても何の不都合もないであろう。ひそかに人事情報を事前入手して「あいつはどこそこへ転勤だ」と自慢げに吹聴する輩がどこにでもいるが、早く情報を入手することだけにこだわる記者もそういった連中と同類だ。しかも度が過ぎると情報元との癒着にもなりかねない。

本来の「特ダネ」とは、他社が知らないことを報道することだろう。発表報道には特ダネはあり得ない。調査報道にこそ特ダネはあり得る。したがって、この記者のように

逮捕時期を早く知ろうとするのではなく、河野さんが容疑者と発表された時点で一応その報道はしても、その理由を調査し裏をとって、真実を確かめる、ということが本来の記者の仕事だろう。熊井監督は、警察発表が憶測であるにもかかわらずほとんどの記者が警察発表を鵜呑みにしてそのまま報道し、人々もみんなそれを信じ込んでしまい、その結果、社会的に冤罪を生んでしまった、と訴えている。もちろん読者側にも、記事を鵜呑みにしない、という姿勢は必要かもしれないが、かといって報道機関に求められるべき姿勢が変わることはない。現実に調査に走った記者もいた。サリンの製造方法を調べ、事件現場を調べ、目撃者を探した。河野さんは犯人ではないかもしれない、との結論に達するが、社内会議では、警察や世論に逆らうことはできない、とお決まりの安全運転結果しか出ない。

もう一つのテーマは「警察自体が冤罪を生んでいる」という事実である。この事件の担当刑事は、確たる証拠もないのに状況証拠から河野さんを犯人と決めてかかるのだが、その行動のよりどころは「被害者の無念をなんとしてもはらすための執念」だという。その思いは尊敬するが、職業意識が行き過ぎて冤罪を生んでしまっては本末転倒である。また、警察という典型的な縦型組織も冤罪の原因である、ということもこの映画は訴えている。上からの指示には逆らえない旧態依然とした組織体制はまさに冤罪の元凶であろう。話は変わるが今年（2022年）４月にNHKBS放送で「正義の行方～飯塚事件30年後の迷宮～」というドキュメンタリー番組があった（今までに２回も再放送されている）。福岡県で発生した幼女誘拐殺人事件で、犯人は逮捕され、裁判で無実を訴えたものの認められず、死刑が執行された。しかし、最近になって警察側の証拠ねつ造が発覚し、冤罪事件として捜査推移を再検証した番組である。NHKにしては珍しく正面から警察、検察、裁判を批判している番組であり興味深かったが、当時の刑事がインタビューに「あいつが犯人であることは間違いない。裁判なんて儀式であり、われわれの捜査結果が絶対なのだ。その証拠にその後同種の事件は起こっていない。」と答えていた。これには仰天した。証拠の不正には何の釈明もなく単に思い込みだけが独り歩きしている。実に恐ろしいことである。足利事件や布川事件等が示す通り国家権力による冤罪事件というのは間違いなく存在するのである。そもそも死刑囚が冤罪で無実と証明されたのなら、検察や警察側の捜査担当者は本来なら死刑になって当然なのである。なぜなら、無実の人間を死刑にするのは殺人事件そのものだからである。権力をかさに着てカンや思い込みによって死刑にされるのではたまったものではない。映画の中で取り調べを受けるときに、刑事は河野さんに「目撃証言がある。自供せよ。」と迫る。河野さんはそれが間違いであることは明白であるから、その人に会わせてくれ、という。当然のことである。しかし刑事は、規則でそれはできない、と受け入れない。こんな理不尽なことがあっていいのだろうか。証拠を確実なものにするためには避けて通れないことだろうに。

個人的な経験だが、数年前にベランダに置いてあったタイヤ４本が盗まれたことがあった。ダメモトと思いながらも警察に被害届を出したが、幸運にも犯人は捕まった。大したものだ、と警察には感謝したが、不満も残った。とにかく犯人に会って、弁償はともかく謝らせようと思ったが、ルールにより会わせられない、というのである。さらには、私の供述書がすでに勝手に作られ、中身に問題なければサインしてほしい、と言う。すべて警察側の言うとおりに事は運ばれる仕組みになっている。また、別の例もある。私の住んでいる埼玉県桶川市はかの有名（？）な桶川ストーカー殺人事件が発生した場所である。事件前に被害者である女子大生の両親が何度も警察署に保護を頼んだが、何ら聞き入れられることもなくJR桶川駅前で殺害されてしまい、地元警察署は全国に醜態をさらしてしまった。何年か前の伊藤詩織さん事件や今現在問題になっている旧統一教会問題にも警察権力の私物化が噂されている。この映画は、こういった現実をしっかりと見ていかなければならない、ということも訴えている。

映画の終盤になって松本サリン事件の実態がドラマで再現される。松本市に教団支部を設立しようとした際に、地元住民の反対に会い裁判沙汰になったから、その担当裁判官を殺害するためにサリンガスを散布したらしい。その結果、何ら関係のない市民７人が犠牲になり600人以上が負傷する。考えられないほど残酷な事件であるが、真犯人は捕まらず翌年の地下鉄サリン事件の大惨事につながっていく。（当時、事件現場近くの赤坂溜池に地下鉄で通っていたが、たまたま事件当日は出張中であり家族に余計な心配をかけることもなかった。）この映画のテーマは宗教犯罪ではなく報道の在り方であるが、どうしても宗教に対する思いも書いておきたい。信教の自由は尊重されなければならず、信仰する人々を非難することはできないが、私自身どんな宗教も受け入れられない（もちろん個人的意見である）。昔から世界各地で、さまざまな教義がいかに人々を苦しめてきたことか。宗教に起因した戦争は数知れないし（アフリカ、中東地域では今も続いている）、中世のヨーロッパではキリスト教の名でいかに多くの人が理不尽に殺されたことか。国内においても我々の前の世代までは天皇が神とされ、そのためにいかに多くの国民が死んでいったことか。オウム真理教はもとより旧統一教会や幸福の科学（教祖の大川隆法は吉野川市川島町の出身である）の教義など誰が考えても「世迷い事」としか思えないのだが、考えられないほど多くの人が信じ込み大金を貢ぐ。「個人的な考えを押しつけるな」と叱られるかもしれないが、それでも思う。なぜ宗教にしがみつくのか、と。個人的に心の安らぎと思って信仰して平和に毎日を過ごしている人も多いことだろう。しかし、宗教が権力と結びつくとろくなことはない。今、政治家と旧統一

教会との癒着が毎日のように報道されている。

この映画の主役は高校生たちでもある。世間ずれした大人たちの中で、本来の報道の在り方とは何か、という当たり前のことを取材中ずっと考え続けていた。残酷な事件であるがゆえに、彼らのさわやかさが実に印象深い。ちなみに熊井監督は松本市近くの安曇野市出身であり、高校は松本高校だったらしい。脚本も同監督が担当しており、そのことが高校生の取材を軸にした物語にした理由かな、と思ったりしている。若い頃の素直な青臭い感情は今さら望むべくもないが、年をとってもなんとかこういう気持ちを持ち続けたいものである。

余談であるが、ジャーナリズムに関して最近の経験を書いておきたい。新聞にはその新聞社の顔ともいうべきコラムがある。ある地方新聞のコラムに明らかに間違ったこと（詳細は省く）が書かれてあったのを県外の友人からのメールで知った。住所氏名を明示したうえで新聞社にその旨メールで間違いを指摘した。何の返事もないので広報部に電話した。ところが「何も答えられません」の一点張りである。名前表示や数字が間違っただけでも翌日には訂正コメントがあるのが普通であるにもかかわらず、木で鼻をくくったような返事しかない。コラムの筆者にも直接手紙で連絡し回答を求めたが、やはり無視されたままである。この新聞社はコラムの書き写しノートまで販売しているのに、訂正しようともしない。もちろん間違いは誰にでもある。間違いを責めているのではなく、間違いを認めないこと、後処理をほったらかしにすること、に怒りを感じるのである。そもそも新聞というのは取材、つまり人々に聞くことから始まるのであろう。その当の新聞社が、聞かれても何も答えない、というのはどういうわけなのか。単なるクレーマーの戯言としか思われていないのか。ちなみに、このトンデモ新聞社はＩ県のＨ新聞社である。今後機会があれば直接訪問してみたいと思っている。それにしても一事が万事、今の大手ジャーナリズム全体が矜持を無くし、牙を無くし、忖度だらけになっていると思うのは私だけだろうか。権力に対する番犬であるべき記者が、全く吠えずに尻尾を振るだけである。「ペンは剣よりも強し」という格言も今や風前の灯火か…。

赤い手帖（32）

昭和45年度電気　森　田　虔　児

今し方、歌舞伎俳優の「松本白鸚」に文化勲章が贈られる報道があった。50年以上昔の見能林の学生寮時代、TVで「市川染五郎」として、ギターを抱え「野バラ咲く路」を唄っていた姿が印象に残る人であった。長雨や強風を繰り返していた初秋の空模様が、ここ数日、ようやく落ち着いたと安堵した途端、朝方の外気が一気に摂氏12度くらいに下がった。自宅の玄関から望むと、左手の箱根の山々と、右手の丹沢山塊に挟まれた位置に見える富士山は、いつの間にか頂上からの６～７割が冠雪しており、夕焼け時には、錦絵のような風景を見せてくれる。

ことしも「コロナ禍」は続いているが、３月と８月に、車で少し遠出して、伊豆高原の同じホテルに孫達を伴い６人で泊まりに出掛けた。８月の旅行の際には、大室山の頂上に初めて登った。新入社員であった50年ほど昔は、職場全員での宿泊旅行が当たり前のように実施された時代で、幹事を任され、この大室山近くの保養所にも度々訪れていた。標高580米の丸い山に過ぎないと、当時は全く興味が無かったが、伊豆東部火山群最大級のスコリア丘と言われるだけあって、巨大なすり鉢状の噴火口跡や、山頂から眺める富士山や伊豆諸島もなかなかの景観であった。

息子夫婦の長子出産後の同居を控え、八年前に二世帯住宅に建て替えたのであるが、建て替え前の我が家には、さして広くはない「図書室」があった。定期刊行物の類を併せると、そこに小生の蔵書も二千冊ほど収容していたが、建て替え中の仮住まいへの引越しの際に、単行本の約六百冊を除き、大半を引越し業者に処分してもらった。その捨てきれなかった書籍のうち、およそ半分については完読していない。定年後の無職の日々であっても、「読書三昧」の時間は得難く、「今後の人生はそれほど長くない」ことを実感する昨今である。当然、新たな本の購入は控えている。

過日、同居している下の孫とそのママの送迎のため、車で少し遠方にある地区センターを訪れた。そこには、近隣住民用の、こぢんまりとした「図書コーナー」があった。待ち時間に覗いてみると、正面に「新刊図書」の棚があり、最近の新聞で紹介されたような書名の本が十冊ほど並べてあった。そこではたと、「学校や図書館・区役所等の公共施設は、出版物の安定した購買層である」という事に気付いた。「個人の図書購買欲が減少して、書店が苦戦してい

る」という巷のうわさの先入観から、「本が読まれ（すなわち、売れ）なくなった」と思い込んでいたが、実は「図書館等向けの新刊本の取次ぎが、出版業界をしっかり支えている」という訳である。最近、書店数が大幅に減少している事は、生活圏内で実感するのであるが、「本の流通」に関する書物に依れば図書館自体の数は、この五十年で実に４倍近くに増えているそうである。

息子が未だ幼い頃、歩いてすぐの所に「ちびっ子広場」があった。そこは、地域で老人ホームなどを経営する素封家が、無償で提供して呉れていた空き地であり、子供たちの遊び場としては勿論、町内会の盆踊りをはじめ、隔月の美化運動の集合場所や定期防災訓練、年始の「どんど焼き」の会場としても重宝していた。ところが、先代が亡くなって暫くして閉鎖されてしまい、間もなくそこに「クリニック」が開業した。かつての広場が、その専用駐車場や、隣接した薬局のスペースに替わってしまった。そのクリニックの院長は、市内で他の医院も開業している脳神経外科の専門医であるが、徳島県の出身者ならば、その苗字から「同郷人」だと容易に分かるお名前の方である。ちょっとした風邪症状や予防接種の際には、歩いて受診できるので、会社員時代に通った病院にわざわざ向かうのが面倒な場合に、小生も活用させて貰っている。

件の「ちびっ子広場」であった土地は、遺産相続者の納税対策で手放したものと推定する。つい最近、そのエリアのすぐ隣にある、比較的広大な「原野」についても、見る見るうちに整地が進められて行った。「遊水地」にでもするのかと勝手に想像していたが、やがて、自動車メーカーの「モータープール」である事が分かってきた。我が家の比較的近くには、古くからＩ社の自動車工場があり、その敷地内には、地域とのコミュニティ施設として「車両の技術・歴史」の展示・体験コーナーがあって、孫達にも人気がある。ところが、この度の「モータープール」を使用しているのは、あまり馴染みのないＨ社の車両であった。まだナンバープレートがない新車のみの様子であるが、敷地内に看板らしき物は皆無である。もしかして「型式指定（排ガス・燃費性能）」の不正問題で、出荷停止の対象となった車両の、一時保管場所として活用しているのかも知れぬ、と考えた。

最近では洋室だけの住宅も多くなった様だが、我が家は、建て替え後にも、畳の部屋をひとつだけ設けた。ただし、「第２子供部屋」と化しているのが現実であり、孫達が道路のおもちゃを拡げて、70台ほどのミニカーを並べて遊んだり、時にはチャンバラやバドミントンをしている。その和室の床の間の隅に、二年ほど前、孫に買い与えた、「音声学習機能付き地球儀」が置いてある。ロシアのウクライナ侵攻を契機に、この地球儀を眺めることが増えたが、固よりベラルーシやポーランド・トルコとウクライナとの地勢上の位置関係の認識が曖昧で、況してや、旧ソビエト連邦圏の同盟・支配・敵対関係の機微に関して、さほど理解できていなかったことに愕然としている。カザフスタン・キルギス・タジキスタンをはじめ、アルメニア・アゼルバイジャンなど、中央アジア諸国にまで及ぶ「民族ナショナリズム」の行く末も案じられる。

マイナンバーカードの交付・取得が進展しないと報じられて久しい。かつて、類似システム導入の試みには挫折した風にきいている。今回の政策も、利便性やセキュリティ対策についての、国民の要望や不安を軽視した、強制発行手段が採られる事態になると、カード導入の本来目的について周知・実現を計ることより、「普及率の達成」そのものが目的化してしまう惧れがある。かかる拙速は、システムの不具合摘出の機会をも阻害し、普及後にシステム上の予期せぬ混乱や不便を生ずるのではないかと懸念される。

会社員生活の拙い経験で、小生が体得したものに、「17%」・「70%」という、ふたつの「指標」がある。これを、全社で参照・管理するための、新しいデータ収集システム導入や、新規の資格取得制度の導入など、現場組織・担当社員の協力や賛同が必要となる案件の推進事例で述べる。いずれも、現場では余分の手間と教育・配慮を必要とするが、対応者本人たちには、直接のメリットが見え辛いケースで、第三者（管理部門や営業部門）が導入の要求元である、「面倒くさい」ケースについてである。簡単に言えば、社内には、新しい制度等を無批判に受け入れる人が、ある程度常に存在する。これに当該制度の推進元周辺の人（シンパ）を加えると、経験的に大体17%程度の賛同者を、初期にも容易に確保できるのである。従って、この数値を獲得した段階が、普及に関する努力の「真の出発点」となる。そして、種々努力の結果、所定の期間内の妥当な時点で70%前後にまで進捗・普及できていれば、そのプロジェクトの完成が見通せるという訳である。

ハイテク企業向けのマーケティングに関しては、「Chasm（キャズム＝溝）の壁」という理論があるらしい。そこでは技術革新導入上での「消費者の心情」について、「初期アダプター」と「初期マジョリティ」の間に、最も深い「溝」があるとしているそうである。この「溝」は、小生がかつて経験的に指標とした「17%・70%の閾値」の概念に通ずる気がしている。

ちなみに、各種議員選挙において、現政権党の有効投票総数における得票率は、大体40%前後らしい。また投票

率の方は、最近の数値では全有権者数のおよそ50%とのことである。従って、有権者全体から見た現政権の支持率は、0.4 × 0.5 = 0.2、即ち20%程度ということになる。更にこの数値を分析した結果で、いま世間を賑わせている「某支援団体」等によるダミーの積み上げがあるとしたら、（それを差し引いた）真の政権党支持率は17%前後ということになるのではないか。この程度の実力の支持率に過ぎない政権党を中心とした与党陣営が、他国との紛争発生に繋がるような「閣議決定」を不用意になす恐れが、全く無い訳ではないのである。

記憶というものは曖昧で、殊に50年以上前となる入学当時の風景となると、あまり自信はない。母校の一期生の時代は、現在のキャンパス敷地内では、校舎の建設工事中のため、借り上げの離れた教室や、北の脇の公共施設での講義や研修があったと伝え聞いている。実験施設や階段教室をはじめ、体育館・陸上競技場などが既に整備されていた、４期生の我々は、随分恵まれた環境に居たようである。校長は（他大学との兼務であった開学当時と異なり）、母校専任（初代）の太田友弥先生であった。現在のような規模の学生数でなかった故か、クラス毎の少人数での、校長とのランチミーティングのような催しもあった。それは確か、やや緊張気味の谷山信次先生が「コーディネータ」となって実施された。席上、自動車事故の衝撃に関する「人体の損傷規模の推定・定量化」などを研究課題として委嘱された（このテーマは、今なら「エアバッグ」の導入に関連するものか）とのホットな話題に絡めて、太田校長は、「これまでの半生を振り返ると、周囲や他者に薦められたり頼まれたりした進路選択の結果で現在がある」と仰っていた。小生は生意気にも「お若い時分の恋愛に関しても同様ですか」と尋ねてしまったが、「いや、流石にそれは自分の意志です」と真面目に、かつ軽く返答して頂いた。我々の卒業時にもその太田校長が在職されており、訓辞の終わりに、「諸君は、どうか工専の学歴を得たことに奢らず、また悲観せず、を心掛けて下さい」と印象的に結ばれた。

在校時の二年生の終わり頃、寺戸恒夫先生が小生につかつかと寄ってこられ、「今年はよく頑張ったな」と正面からポンと小生の両肩に手を添えて「きみの郷里のＫさん宅には、以前お世話になったんだよ」と、お若き日の高校教師時代の教え子のフルネームを話題にした。小生のふる里周辺の山は、三葉虫とかクサリサンゴなどの化石が豊富らしく、学位論文執筆の土質調査の際、登山口にある旧家のＫさん宅に立ち寄られた模様である。そこは、実は小生の母が養女として育った家で、そこの姉妹の部屋に、幼い頃の小生は、年の離れた弟の如く、自由に出入りしていた訳である。その時の話題の長女は、のちの日に母校の一期生の実家に嫁いだようである。今は亡き伯父から、東京に住んでいる従妹の配偶者が二期生の方であるとは、遠い昔に聞いていた。その従妹とは特に交流がないまま今日に至っている。一方、徳島に住む、義姉の妹の連れ合いが母校の先輩（一期生）であることが、つい最近に判明した。このところ、件の義妹とは、母や兄の法事等で頻繁にお目にかかる機会が続く中での、今更の情報で、まことに驚いた次第である。両親や近親者がこの世に居なくなってから、改めて識る縁も有るものだ。

たそがれびとの子守唄③

昭和45年度機械

久　米　恵　二

第12回阿南高専悠久同窓会ゴルフ大会

天気の巡り合わせが悪かったのか、しばらく晴天が続いていたのにこの日だけ雨になった。受付を済ませ２階のレストランに行くと、入ってすぐのとこに西野さん（２期）が座っていた。先日徳島で前進座創立90周年記念公演で会っていたので横に座った。この公演は山崎辰三郎さん（２期生で本名 宮城　進さん）が出演されており、阿南高専卒業者もたくさん見かけた。話が外れたが前の席に美しく若い女性が座っていた。西野さんから44期生の山上歩美さんだと紹介された。悠久ゴルフ大会に出場する初めての女性となったようだ。

出場者名簿を見ていると一期生の大住　清さんの名を見つけた。一期生、二期生の参加者はほとんど常連だが、大住さんは初めてだった。西野さんと「大住さんが来とんやな」「ほう、そうやな」「卒業以来50年以上会ってない」「ワイも会うてない」などと話していると２つ離れた席から「一期生の大住です」と声がした。マスクをしていなくても全然わからなかったと思う。髪はフサフサで黒々している。西野さんも私も髪がなく「どっちが先輩か後輩かわからんな」という話で大いに盛りあがった。

大会は雨の中で始まった。ただ幸運なことに後半は晴天となりカッパを着ずに済んだ。私はスタート２組目で、同期の中井と５期の武田君の３人でまわった。武田君とは初めて一緒になったが、中学のとき野球部だったとのことで、スイングは力強く芯に当たればどこまで飛ぶかわからない程だった。中井はグロス75で56名参加の中でダントツの優勝だった。プレー中、中井と武田君はゴルフの技術談義をよくしていたが、私のスコアではこの話の中に入っていく隙が全然なかった。

ベースボール

２期生の先輩が甲子園球場の年間指定席券（三塁ベースの上 20 段目くらい）を持っており、自分が行けないときは知人に配っている。私にもその入場券がまわってくる。今年は６回いただいた。

最初の５回は「選手がコロナ感染のため中止（対 DeNA 戦）「甲子園球場が雨天のため中止」「大鳴門橋が強風のため通行止め」などの理由で、結局一試合しか観えなかった。

５回のうち１回しか行けなかったのは気の毒と先輩が気を使ってくれたようで、甲子園球場での最終戦となる阪神対ヤクルト戦の入場券をもってきてくれた。両チームともクライマックスシリーズに出場が決っており、勝敗よりもヤクルトの４番村上宗隆選手を一目見るのが目的だったが、事情があったようでこの試合には出なかった。試合は９回裏に阪神が追いつき３対３となり延長 12 回までいった。そのおかげで両チームともベンチ入りした選手のほとんどが、代打、代走、守備固めで出場したので、村上は出なかったが結構楽しめた。

今年の日本シリーズは去年と同じヤクルト対オリックスの戦となった。ヤクルトが２勝１分けし早々決着するものと思われたが、そのあとオリックスが奮起し４連勝、26 年ぶりに日本一となった。その原動力となったのが杉本裕太郎だった。見能林町の北の脇海水浴場あたりの出身。私も見能林で５年間お世話になっており応援しないわけにはいかなかった。

ラグビーフットボール

コロナ感染予防のため徳島県高校ラグビー選手権大会は無観客で行われていたが、２年ぶりに解禁となり徳島市球技場へ観戦に行った。この大会は正月の花園ラグビー場出場をかけた大一番の大会である。私はラグビー経験者ではないのだが、神戸製鋼に林、平尾、大八木という日本を代表する選手がいたころからラグビーファンになった。もっとも林選手が中学の後輩なのと、近所に高校ラグビーが行われるグラウンドがあったのが理由だろう。

ラグビーの魅力はボールをもって華麗にステップを切る爽快感、全力で走る相手に果敢にタックルする迫力感、泥くさくスクラムを組む力強さだろう。なかでも一番力が入るのがゴール前でのスクラム戦。攻めるも守るも双方必死。観ている方も知らず知らず手に汗にぎっている。徳島市球技場はラグビー、サッカー専用につくられており、この攻防が目の前で観ることができる。また観客席に再三ボールがとび込んでくるので、観客も自分が試合に出ているような気分にしてくれる。

二つ目の魅力は監督采配の怒鳴り声が聞けることだ。かつての池田高校野球部の蔦監督がそうであったように「アホ」「ボケ」「カス」に近い罵声がとび交う。元来ラグビーの監督は観客席の上段に座り静かにしているものだが、徳島県高校ラグビーの監督は最前列に座り大声をあげている人が多いようだ。

三つ目はラグビーに限らないが、女子マネージャーである。今日は鳴門高対阿波高とつるぎ高（旧貞光工業と美馬商業が統合）対徳島科学技術高（旧徳島工業）の２試合があった。各校とも５人から 10 人くらい女子マネージャーがいる。上下ジャージ姿で質素ではあるが、どの子もアイドルのように見える。だぶん化粧しているのだろうが若い娘さんはさわやかだ。

蔓延防止

最近、お役所からコロナ対策で「蔓延防止」という難しい漢字を使ったお触書が出た。

当用漢字や、英語表現に慣れさせられた世代にはこの漢字はすぐには読めないだろう。うなぎの漢字が「鰻」だから、「まんえんぼうし」と読んだら正解であった。しかし、この漢字は NHK をはじめ民放、新聞各紙のマスコミが「まん延防止」と表現したから、ほどなく目の前から消えてしまった。ただ、産経新聞のみが「蔓延防止」と書きフリガナを振って、この漢字を使い続けたのは文筆を生業にする記者の意地か。

医学の世界では、鬱病が、うつ病になり、胃皺襞を胃すう襞、更に胃すう壁と間違って書いている文章もある。陰鬱、鬱憤も、陰うつ、うっぷんになってしまった。

今の世界の言語はほとんどが表音文字である。発音される言葉が意味を成す。一方、漢字文化の我が国や中国の言語は表意文字と呼ばれ、字一つ一つに意味がある。中には何種類もの意味を含むものさえある。覚えるのは大変だが、類似の文字も含め、多彩な表現ができる。これが日本語である。これが失われていっている現状が惜しいのである。

仮名表現は読みやすく、仮名にすると易しいという錯覚がある。先ほどの鬱病、憂鬱、陰鬱、鬱憤もうつ病、憂うつ、陰うつ、うっ憤と、「鬱」が難しいからと「混ぜ書き」にしてしまうと、「うつ」に共通する関係性が見えなくなってしまう。漢字に込められた有形無形のイメージを抹消してしまっている。

読みにくい漢字、熟語があれば漢字にフリガナを打てばいい。幼いころからフリガナ付きの本を読むことで漢字を自然と覚えてきた記憶がある。パソコンの時代、どんな難しい漢字もすぐ表せられる。書けなくても、とにかく漢字

が読めるようにすると、漢字はモノの実態を表しているから、そのモノのイメージを伴って記憶されやすく、「認知防止」にもうってつけなのである。

ひらがな、カタカナ表記の蔓延防止は今のコロナ対策よりはるかに難しい。

Erfahrungen（経験、体験）

「Nur ein Idiot glaubt, aus den eigenen Erfahrungen zu lernen.
Ich ziehe es vor, aus den Erfahrungen anderer zu lernen, um von vorneherein eigene Fehler zu vermeiden.」
愚者だけが自分の経験から学ぶと信じている。私はむしろ、最初から自分の誤りを避けるため、他人の経験から学ぶのを好む。

Otto von Bismarck　オットー・フォン・ビスマルク

この「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。」は、ドイツの名宰相と言われたオットー・ビスマルクの言葉という事になっているが、昔からこのような内容の言葉はよく聞いてきた。一人の人間が高々80～100年の一生の内に直接に関われることなど、大きな砂漠の中の一粒の砂のようなものだから、歴史上の賢人の足跡に教えを乞うというのは、人の視野を幾分か広げ、思考を軟らかく確かなものにするには必須の要件であろう。ひと一人が個々の経験から導き出された判断に比べると、多くの人々の経験を幅広く集め比較検討し、客観的な事実として定着したものから判断した方が、間違いは少なくなる。AI的発想である。実際、日本の諺にも『三人寄れば文殊の知恵』と言う言葉がある。多くの人の意見を寄せ集め、さらにいいものにするということだろう。

「賢者は歴史に学ぶ」の意味だが、結局、先人が犯した失敗の二の舞にならないようにするということで、先人の失敗をきちんと知っていれば、同じような失敗を避けることができるから、肝に銘じておけということだろう。

しかし反対に、本当に個人の経験は、歴史に学ぶことより意味が無いのであろうか？たとえ刹那的、一時的、一面的でもあっても体験するという事は、それはそれで本当に大切な事だと思う。

この夏、少し残雪の残る「白馬」にハアハアと息を切らし汗を流しながら登った。所詮一度そぞろ歩いただけで「白馬は絶景の山だ」と吹聴しても、「お前は遭難もたびたび起こしている豪雪で吹雪、雪崩の多い暗い冬空のこの山を知らない。この山の怖さを知らずして、ほんの一時のいい山のみを語って本当の白馬を語るな」とこれ見よがしに諭されるのは簡単なことなのだ。しかし、石につまずきながら登り、疲労が頂点に達していても、雪渓から流れ出てくるせせらぎの音、水の冷たさを感じ、頬にそよぐ爽やかな風、すがすがしい晴れから急に曇り、横殴りの風と冷たい雨に変わる気候、雪渓近くで春と夏、秋の花が共存して咲いているお花畑。ここかしこに啼く鳥のさえずり。一瞬の雷鳥発見。一見にしかず、驚き感動したという体験は、山登りの印象ある一面をより鮮やかに彩ってくれるはずなのである。このようなことは多量のデータを見たり、登山記を読むことよりも、一回きりでも体験の前にはひとたまりもない。現地に行けばこその驚き、感動、理解がある。

最近はネットを開けば、世界中の絵になりそうな風景には事欠かないし、綺麗なスマホの写真に感動する。それはそれでいい。ただ、暑かった、ひもじかった、足がつった、足が痛くなった、もう登れないと断念しかかった事、悔しかった事、綺麗な景色に出くわし思わずの歓声、やっと目的地にたどり着け涙が滲んできた事、仲間に励まされ、なにくそと頑張った事。このような自分自身の体験が否応なくこびりついた一枚の写真は、他に代えがたい価値のあるものなのだ。このこびりついた垢のような細やかな体験に触れずして、人は一体何を語り伝えるというのだろう。

体験するのは五感で構成される。「見る」「聞く」「触れる」「味わう」「香る」も決してないがしろにはできない。これら、味や匂いの伝わるアプリは聞いたことがないから、体験することは五感がいっそう鋭敏になり豊かになる。

さて、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。そして聖人は経験から悟る。」とさらに付け加えた諺もある。「聖人は経験から悟る」ですが、よく取り上げられるのが、中国、明代の陽明学の始祖でもある「王陽明」でしょう。王陽明は自分自身の体験と結果を通じて、「書物が無くとも、思索を深めることで、人は聖人になることが出来る」と説いている。体験し、そこからよく考える事がさらに重要だということだ。

2022年10月20日の徳島新聞には、ノーベル物理学賞を受賞した中村修二さんのインタービュー記事が載っている。「本や論文をいくら読んでも役に立たん。身体を動かし、ものをつくれ。ないものは作ればいい。」と指導教官に諭され、知恵を出し、汗を流す大切さを学んだとある。「本や論文をいくら読んだところで、自分が動き出さないと何もできない」という。自然科学を対象にした一研究者の極意だと思って読んだ。日頃の生活、医院経営の中で、困ったときの解決策の一つとして参考になった。古希を過ぎたが、得るものがある。

また、よくテレビドラマに出てくる警視庁捜査一課長は要職にかかわらず、ノンキャリアから選ばれると聞いた。経験がベースにある。

結論的に言うと、多くの人の経験をもとに、よく自分で体験し、考え抜き、更に良い結論を得ようということだろう。体験し感動することが大切だと言うことを強調したい。体験し学び、何かを感じ自分のものを得る。

山からの帰りに「成城石井」で買った珈琲豆は、芳ばしいさわやかな香りが鼻腔に広がり、深いコクのある苦みが

口全体を包み込み、この日は少し濃いめのコーヒーをもう一杯飲んだ。珈琲豆から眼で色、ツヤを見て、手で豆に触れ、耳でガリガリと豆をひく音を聞き、鼻で香りを楽しみ、自分好みのコーヒーカップで、最適の温度のコーヒーを唇、舌、口腔、咽頭、食道そして胃へと味わってこそ、コーヒー本来の五感に触れた醍醐味がある。珈琲通からの受け売りである。

雪　国

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」。ノーベル文学賞を貰った川端康成の代表作の冒頭の文章である。山登りの折、越後湯沢に立ち寄った時にこの小説を思い出した。この冒頭の二文字をどう読むか、昔から熱く論ぜられてきた。作者に聞けば直ぐにでも解決できそうだが、一旦作品として世に出てしまうと、作者の手元を離れ作者でも手の届かないところに行ってしまう。我々は学校で「コッキョウ」と習ってきたし、映画の冒頭でも「コッキョウ」とアナウンスされていた。しかし、本当に国境はコッキョウで良いのであろうか？

このトンネルは清水トンネルで、「上野（こうずけ）のクニ」と「越後のクニ」を結んだ「クニザカイ」にあるのだから「コッキョウ」ではなく「クニザカイ」と読ますべしという文芸研究者がいるのである。私も、論理的にはこれが正しいと思っている。江戸時代が終わるまでは、それぞれの領地を「クニ」と読んでいたから、明治以降地名の離散併合が行われた後も、この「クニ」はいまだに独自性をもって主張し続けている。阿波踊り、讃岐うどん、但馬牛、越前ガニが、「徳島踊り」「香川うどん」「兵庫牛」「福井ガニ」では様にならない。まだ「クニ」は「駒子」の時代も現代も生きている。

しかし、文学の世界はもっと深い読みが必要なのは言うまでもない。東京での殺伐とした日々に疲れた「島村」にとって、雪国の温泉場と「駒子」との出会いは、新鮮で、ある意味、非日常的な異国への旅にも等しかっただろうから、これを「コッキョウ」と読ませるのも文学的には意味のある表現かもしれないし、当時、封建時代が終わり新しい時代になり今風に洒落て、昔の領地の国境「クニザカイ」を「コッキョウ」にして読んでいいのかもしれない。また、冒頭「雪国」の二文字を「クニザカイ」と読んでしまうと後の「雪国であった」の発音「ユキグニ」が差しあった読み方になり、一文の中で同じ文字「国＝クニ」を二度使った語用論的な難点も生じ、それなりに首肯（しゅこう）できる。川端康成に他の文字を使って書き直してもらいたいが、しかし、これはこれで簡潔で響きのいい文章である。まあ、私的には、難しいことを言わず、眼と耳で楽しめたらいいと思う。

「国境の長いトンネルを抜けると雪国マイタケであった」。妻が戯れて私に話しかけてきた。駅弁の中身の話である。

小さな村の物語　イタリア

BS日テレ、毎週土曜日18：00～18：54（再放送日曜10：00～10：54）に放送される我が家でのもう一つの人気番組である。そう、テレビ朝日の「ぽつんと一軒家」のイタリア版と言っていい。「小さな村の物語　イタリア」という番組。もう390回を超えている。

平成29年夏休みを利用して長女、家内とで南フランスに家族旅行をした。ニースで三泊、次いでアヴィニョンに三泊し、その日その日、半日～一日のミニツアーに申し込んでフランスの無名に等しい美しい村、鷹の巣城の村を現地の人の案内でプライベート旅行のように周った。トマくんというイケメンのフランス人にも案内され、この時この地方の事をいろいろ聞いたり教えてもらったりの旅が印象に残り、南仏の田舎の風情に魅了され、イタリアだが、この番組を見るようになった。

番組内容は、「多様性を持つイタリア各地の小さな村で今も息づいている人間本来の心豊かな暮らし。美しく生きるとは？「村」と「村人たち」の飾らない日常の中の物語。目には見えない＜本当に大切なもの＞をその笑顔がそっと教えてくれます」と説明にある。しかし、住民の郷里の小さな村に対する誇らしい気持ちは、南仏でも、他にスペイン、ギリシャでも感じられ、地中海気候の温暖で豊饒な海、

よろず伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡いただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】　阿南高専学生課
阿南市見能林町青木265
ＴＥＬ 0884-23-7132
ＦＡＸ 0884-22-4232
MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

里、山に住む人特有のものだろう。

この番組は他の旅番組のように、有名なタレントさんも出演せず、明光風靡な有名な観光地でもなく、絶品グルメもない。実に単調で地味な内容で、時に退屈な時もあり途中で寝てしまうこともある。ただ淡々と、イタリアの片田舎の村に住む数人の村人の日々の暮らしを追って放送しているだけである。唯一の贅沢が、個性派俳優の三上博史の番組ナレーション・・「イタリアの小さな村。ここで命が生まれ恋が芽生え、始まりも終わりも、大地につつまれてきた。よく笑い、よく食べ、よく遊ぶ。私たちが忘れてしまったすてきなものがたり、人生のすべてがそこにある。・・・」。

安上がりな制作費だと思われるが、実に丁寧に村の様子を描いている。山間の村の生活に必要な最低限の施設。まず小さな教会、パン屋、雑貨屋、小さなレストラン、そして、大人の社交場のバル、ブドウ園、わずかばかりの農地、小さな牧場、農具の修理作業場など。朝起きてみんなで朝食を食べ、子供は学校へ、大人はそれぞれ仕事に励み、そして、夜はワインを楽しみながら、村バルやそれぞれ仲のいい人達が集い談笑して過ごす。週末には親、祖父母の家に家族が集まり食事をし、ワインを飲み談笑して楽しいひと時を過ごす。ヨーロッパではどこにでも見られると思われる、ただ平凡な生活そのものの日常生活である。

しかし、そこに集う人々の人生は多様で千差万別である。入学、卒業、就職、結婚、離婚もあり、祈りがあり絶望があり、出会いと別れと再会も、喜びも悲しみも共有しあい、いさかいもありのままに放送する。「ぽつんと一軒家」のようにみんなから離れて住んでいるわけではないからいろんなことがこの村に起こる。「ニューシネマパラダイス」のように、若者が進学や就職で村を出て街に行くことも多い。今時だから、パソコン、スマホ、Wi-Fi もあり現代社会の恩恵もどっぷりと享受している社会である。決して現代社会に背を向けているわけではない。

そして、いつも感心することがある。失礼な言い方だが、マイクの前でしゃべっている人は決して宝石を付けたりドレスや背広の似合うような人ばかりではなく、化粧もせず大きな声のおしゃべりな人であったり、ほとんど髭も剃っていないよれよれの服を着た飲んだくれである。その風貌に似合わず、思わず納得してしまうような人生哲学を語ってくれる。「家族の大切さ」「仕事をまじめにこなすときの喜び」「ブドウが無事に収穫できた時の感謝」「この土地で生きていることの幸せ」・・。その饒舌な言葉の中に芳醇で聞く人の心に響き酔わせ納得させるものがある。今の境遇に感謝し、どこでも好きな地を選んで住む自由、ここが気に入って住み続ける自由、その選択の結果、この村に誇りをもってここに住み続けている。「Somewhere ＝どこか」が大切なのであり「Anywhere ＝どこでも」ではない。この村にしっかりと根を生やして生きることを、何の恥じらいも何の強がりもなしに語っている。たぶん、若い頃にローマやミラノ、更にフランス、イギリス、アメリカ等にあこがれ、出かけた経験を持たないわけではあるまい。しかし、結局この村に帰ってきて「ここが世界で一番住みやすいところだ」と公言してはばからない。どこにでも住めない人がどこか自分の好きな場所に再結集して、その結果この村を維持している。結果的には生まれ育った村に新しいものを取り入れながら伝統を守った生活が送られている。

ひょっとしたら、この人達たちは我々現代人の望んでいる最先端の生活を送っているのかもしれない。実際は小さな村に住んでいるが、心の中では大きな村に住んでいるのだろう。

不安な言葉

「私、脱いだらすごいんです」と中年の婦人に告白された。

私の高専同窓 LINE 悪友連中はこれを聞いただけで、涎を垂らし鼻血を流すだろう。しかし、ドキッとするのは早合点である。足の打撲傷で来院し、靴下を脱ぐ前の診察室での会話である。悪友は「脱いだら」に反応するだろうが、私は「すごいんです」に反応した。

この**「すごい」**という形容詞は物事の程度が激しいことを示すにすぎないので、何がどう「すごい」のかはこれだけでは全くわからない。いかにひどい状態を言いたいのだろうが、具体性がなく想像できない。今、世間ではこの形容詞は氾濫（はんらん）というか紊乱（ぶんらん）していて、「おいしい」も「美しい」も「高い」も、「まずい」「汚い」「低い」「安い」、「ややっこしい」も、すべてとりあえず「すごい」で済ます。

「やばい」という言葉も同じである。この言葉が出回り始めたころは「怪しい」とか、「危険な」など、不都合であったり否定的な意味で使われていたが、昨今は「よくない」も「素晴らしい」も共に「やばい」の一言で済ませてしまう。会話の途中で、いちいち最も適切な形容詞を選択するのも面倒だから、とりあえず「すごい」「やばい」でその場を繕う。言われたほうも何がどの程度「すごい」「やばい」のか敢えて追求しないから、さしあったって会話は成り立っているかのように見えるのだが、「すごい」も「やばい」も、どの程度のイメージかは不明だから、双方が思い描いたそれぞれのイメージが正確に一致することなど、たぶんありえない。世間はスマホでの会話が盛んで、ボキャブラリーが少なくて話が進み、はたして内容が共有できるか不安である。

「大丈夫です」という返事も、**「～して可能ですか？」**も、最近よく若者を中心に聞く言葉であるが、詳しく聞いて会話の中でその内容、本人の意思を確かめないと「していいのか？いけないのか？」の意図がわからず、勝手に解釈すると場合によっては、全く正反対の意味になり、不本意な対応になってしまう。下手な俳句と一緒。**「知らんけど！」**。

1日目：自宅（デュセルドルフ / 独）～ カレイ ～ ルーワン

一日目、自宅（デュッセルドルフ / 独）からダンケルク / 仏、まではアウトバーンの乗り継ぎでただ跳ばすだけの道でしたが、分岐点で行き方を間違えるとアウトバーン走行だけに、行先修正には大きなエネルギーが必要となります。故に、その分岐点での神経の使い方は尋常ではありませんでした。

“□□□海峡”と聞くと、つい、荒波が岩壁に打ち当たる波頭イメージが思い浮かびますが、この“海峡の町カレイ” はいわゆる“岩壁風”でなく“砂浜辺風”であり、それゆえ停泊中の連絡船をみるとホバータイプでありました。こちらドーバー海峡のフランス・カレイの町、その海浜形状でありますが、対岸の町フォークストーン / 英 も同様の形状でなかろうかと容易に想像がついたものです。

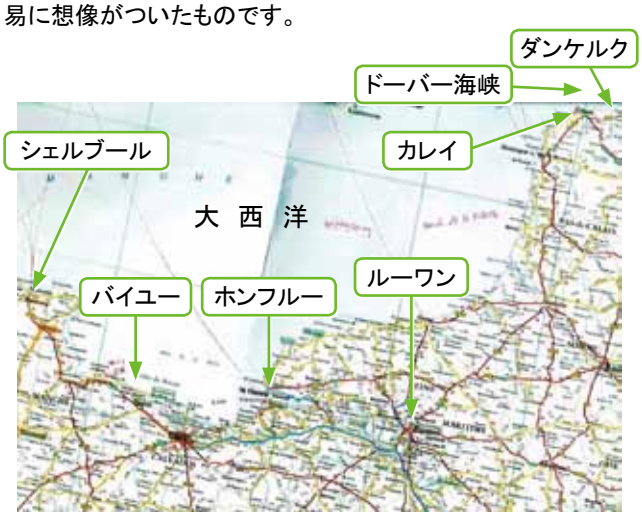


図1．初日昼頃からの行程：ダンケルク➡カレイ➡ルーワン（2日目➡ホンフルー➡バイユー➡シェルブール）

さて

ここカレイの港を目指すとしたとき、大西洋に出るのはまず一つ北の町ダンケルクを目指し、その後南下すると決めたのは正解でありました。というのも、カレイの町に向かったとして“どの様なのがカレイの町”なのか？ そもそも初めての町であり、分からないからです。そのように大西洋岸に出、予定通りそのまま南下し、初めての大西洋を右手に見ながら、若干心にゆとりを持たせてカレイの町に着いたという、いわゆる確実性をもって“カレイ”だといえる到着の仕方を選びました。ここが旅の始まりでもありますし、始まりでこけてはいけないな！っというのがありましたね。

図2．HOVERPORT に停泊中の海峡連絡船

海辺近くの道を南下して来ましたが、海で遊んだ人たちがそれぞれ陸に上がってくる様子に「ああ日本のどこかの海辺の町の風情とよく似たものだ」というのが初めて体験した大西洋岸の印象でした。ドーバートンネル工事のカレイの町は、海に面して大概“工事中”の様を呈しており、パーキングはなぜか“自由駐車”でありました。そこで車を降り、ちょっとしたレストランを見つけ、やや遅いランチを取ることとしました。レストランは日本でも見られる渡船客を相手にした感じのレストランでありましたね（我が家から約 400km 余）。

ただ、今晩中に（正確には夕食時刻までには）ルーアンまで走破しなければならないので、そんなにゆっくりとはできない事情があり、子供たちにとってもあわただしいドーバー海峡のランチであったのでは、と思っている次第です。

図3．カレイの港、HOVERPORT のそばにあるレストランからドーバー海峡を望む

始点：デュッセルドルフ(生活の場) ➡ アーヘン ➡ リエージュ ➡ ブラッセル ➡ リレ ➡ ダンケルク ➡ カレイ ➡ ルーアン ➡ ホンフルー ➡ バイユー ➡ シェルブール ➡ モンサンミッシェル・サンマロ ➡ レネ ➡ ナント ➡ ボルドー ➡ トゥールーズ ➡ アルビー ➡ カルカッソンヌ ➡ モンペリエ ➡ ニーメ ➡ アビニヨン ➡ オランジュ ➡ アルル ➡ エクス・アン・プロバンス ➡ ニース ➡ モナコ ➡ アルプス越え ➡ グルノーブル ➡ リヨン ➡ ボーヌ ➡ ストラスブール ➡ バーデンバーデン ➡ 終点：デュッセルドルフ

図4．添付説明．フランス国土一周走行ルート

（まさに）いっとき、レストランの大きなガラス窓からドーバー海峡の景色を目に焼き付けた後、やおら今夜の宿泊地ルーアン（210km 余）へとハンドルを握る。海浜の風情と別れ、フロントガラスに打ち当たる“小雨の音を目に”しながら、一路 A16 号線を南下、つづいてA 28 号線へとハンドルを切ることとなった。ここからは前方車の明かりを針路にひたすら霧の闇を駆けっ走るという時間でありました。外が見えていれば、ちょうどあのホッペマの画「並木道」の様な風情の中を走っているのだろう、と想像を掻き立てながら…でした。

ただ、この“並木道”…一筋縄では行かない…をどれくらい突っ走っただろうか、それは“延々と続く”という文言がぴったり当てはまる“長い闇中の走り”でありましたが…。

その“悪戦苦闘”の“並木道”を無事走破してルーアンの宿 HOTEL de BORDEAUX に着いたのはすでに9時を回っていた時刻でありました。

図5. 車のセキュリティ：長旅中、車に万一の事がない様にメカニカルロックを架け、旅の安全を護った。
＊画像は国内設置分、同型を現地で採用した。

この時節、街はクリスマスのイリューミネーションで一杯であり、その景色を見ない手はないと、到着したその足で、飾られた夜の街に出、夕食方々フランス国土一周の初日、ルーアンの街でその情景を堪能しました。

図6. 到着した夜、イリューミネーションに映えるルーアンの大聖堂

ルーアンは前号でも記しましたが、15世紀英仏百年戦争時代、窮地に陥ったフランス軍を蘇らせ救世主となったジャンヌダルク、その火刑の地でもあります。

街中での夕食を終え、ホテルに帰ってシャワーを浴びると、ひとたまりもなく寝入ってしまいました。今日一日すべて初めてのフランスの町（走行距離約 620km）…。

ルーアンの朝、昨夜一挙に寝入り、その眠りはかなり深かった様でスカッと目覚め、ホテルでの朝食を終えると、さっそくその朝の様子を見に街に出かけたものです。夕べのイリューミネーションに代わって、白熱電灯が美味しそうに見せて並ぶ朝市の食料品店、、、店、美しい花を取り揃えた花屋さんなどなど、“ジャンヌダルクの朝市”は美しく活気を帯びた始まりをしておりました。

図7. ルーアンの朝市 お花屋さん

2日目：ルーアン ➡ ホンフルー ➡ バイユー ➡ シェルブール
（ノルマンディー地方）

さて、今朝も長居はできない、今夕の宿泊地はシェルブール、昨日ほどではない距離ですが、ノルマンディーの道すがらは興味深い訪問場所が待っています…。

図8. ここは上流パリからのセーヌ川河口の町ホンフルー絵になる景色が多い…

さて、ルーアンから西へと走るとセーヌ川が現れたり見えなくなったりしながらその河口に着く、ホンフルーの町。ヨットや小型船が停泊する美しい街でありました。その港風の岸壁に佇みつつ、やおらフレッシュエアな水辺の町に別れを告げ次の町バイユーへとハンドルを取りました。（続）

図9. バイユー戦争博物館へ案内

注記）文中内に記した距離（_km）はその後のネット情報から確認したもので、当時得たものではありません 。

３ヶ月間のイギリス出張

昭和45年度電気
半　田　勝　人

イギリスの Barnsley にある工場（KBE）に、３ヶ月間出張した。

１．目　的

第５陣の短期技術支援（最終支援）として、2008 年/10 ～ 12 月の３ヶ月間滞在した。

- 主に、メンテナンス部門の支援（修理時間短縮のための改善、予防保全）
- ちょうど、リーマン・ショックのあった頃
- 創業は 1990 年で、製造品目は、HUB UNIT・WPB・TRB・DAC・SBB です。
- 従業員は、430 人（日本人駐在員８人含む）

２．出張者

私と他工場（施設管理の機械保全担当者、１人）の２人

【 飛 行 経 路 】

〈出　国〉
関空 → オランダ（アムステルダムのスキポール空港）
→ イギリス（マンチェスター空港）
※　関空からルーマニアへの出張者（１人）と同行し、その人が初めてなのでスキポール空港でルーマニア行きの搭乗口まで、連れて行くように頼まれたので、５時間空港内で過ごした。

スキポール空港は非常に広くていろんな店があり、マックで食べたり、結構楽しめた。

〈帰　国〉
出国と同じ経路
※マンチェスター空港のカウンターで「aisle seat please」と言ったら、席の前に大きなテレビがあり（前が通路）、足を伸ばすことができて快適だった。スーツを着用していた。

スキポール空港のカウンターでビールを飲んでいたら日本人男性に会った。男性は教師を定年退職後、各国を回って、日本の昔の遊び（竹とんぼ等）を紹介していた。
スキポール空港→関空の機内も、席の前に大きなテレビがあり快適でした。また、隣の席には日本人の母娘がいたので、話をすることができた。

３．日本人駐在員

８人（統括、原価管理、生産管理、品質管理、製造技術）

４．作業者

英語で話してないようなので尋ねたら、ポーランド人だった。事務所の女性もポーランド人が多くいた。

勤務体系の変更

コンチネンタルシフト（４班２交代）
４日間勤務（昼勤 12 H、夜勤 12 H）して、４日間休み

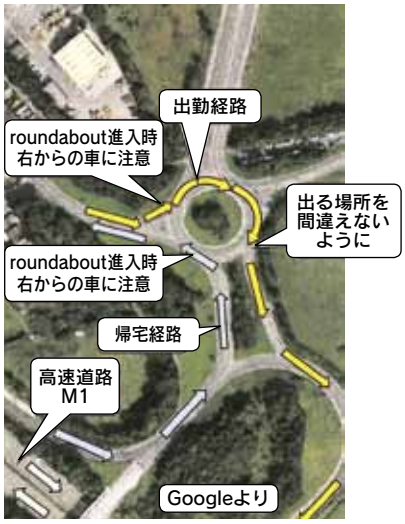
↓（11 月より）

３シフト（日本と同じ）に変更して、土曜日と日曜日（割増になる）は休み
同時に、メンテナンス部門に新設された組織は、
① オイラーマン　油圧油＆潤滑油の補給専任者
② ＰＰＭチーム　故障削減のための改善を計画的に実施

車、運転

道路は日本と同じ左側通行で、右ハンドルだが、ウインカーとワイパーが逆だった。帰国直後は、ウインカーとワイパーの操作をよく間違えた。車はマニュアル仕様だった。ほとんどがマニュアル仕様で、オートマ仕様は高齢者のみ。

交差点は、環状交差点（roundabout）で時計方向に回り、常に右から来る車に優先権がある。出口に迷ったら慌てずに一周すればよいが慣れないと難しい。一度、女性に鳴らされた。



宿泊していた家付近の roundabout

道路沿いに民家がある場所では、速度取り締まり用のカメラが設置されていた。

高速道路（M1）は国の中央を南北に通っていて、最高速度は 70 マイル（112km）で無料。

給油はセルフで、給油後に給油機の番号をレジに行って支払った。

住居、食事

一戸建てで庭付きの家に宿泊した。空調設備は、セントラルヒーティングで熱源はガスで、各部屋にはオイルヒーターが設置されていた。

宿泊していた家

夏は涼しいので冷房は必要ない。コンセントは 240V で、形状が違うので、変換器が必要。ドライヤーは 120V／240V 切り替え可能なものを購入して持参した。

宿泊していた家の向かいの状況

道路の反対側は長屋みたいに家がずっと続いていて、庭がないので路上駐車していた。長屋のはずれの空き地には、馬が放牧されていた。

食事は、朝食と夕食は自炊で、昼食は工場の食堂で食べた。お米は近くの町で調達した。外食は、イギリス料理は有名なものがなかった。工場の近くにインド料理店が２軒ありその店に食べに行ったらナンが付いていた。また、家の近くに持ち帰り用の中華料理店があったので、仕事の帰りによく買った。メニューが 100 種類以上あり、安くて量が多かった。

当時は、髪を染めていたので、会社の人に頼んだら友人が家に来てくれて、散髪して毛染めをしてくれて帰った。後は自分でシャワーして染料を落とした。

ドラム式洗濯機と乾燥機が設置されていたが、最近、図書館で借りた本に記載されていた内容で、欧州の水は洗浄力が低い硬水なので、水流だけでは汚れが落ちないので、叩き洗いのドラム式が使われている。日本では、洗浄力のある軟水なので、水流で洗うタテ式のほうが汚れがよく落ちるとのこと。高価なドラム式よりもタテ式がお勧めです。

気　候

10 月から 12 月の間は寒くて、いつも小雨が降っていて、晴れ間がほとんどないので、気分が滅入った。また、緯度が高いので、16 時ごろになると日が暮れてしまう。工場からの帰りに車のフロントガラスが凍っていて、暖房して融かしてから帰っていた。イギリス人は冬の期間は長期間休んで、ヨーロッパ旅行に行くらしい。

工　場

会社で使っていたパソコンを資料作成のために持参した。第２工場の HUB UNIT ラインをメインに担当した。

月曜日の機械の立ち上がりが悪いので、土曜日＆日曜日の対応として、

① 機械の電源を ON にしておいた。

② 終日暖房運転した。

①、②を実施した結果、機械故障が削減できた。

附帯設備（コンプレッサー、集中給油濾過装置）の日常点検ができていなかったので、専任者（David）を雇ってもらい、各設備の点検表を作成して実施してもらった。

David が第１工場と第２工場のエアー配管を接続（ループ配管）して、コンプレッサー６台を４台運転に減らして、エアー圧も 0.63→0.57Mpa に下げて、省エネができた。

研磨機に使用している水溶性クーラントの件で、アメリカのオレンジバーグ工場で一緒に働いていたエンジニア（Spencer）にメールで問い合わせた結果、同じ種類で濃度・PH はほとんど同じであったが、水の硬度（ppm）がオレンジバーグ工場は 100 程度に対して KBE では 200 程度の硬水であった。硬水だとクーラントが分離しやすい。なお、軟水だと泡が立ちやすい。

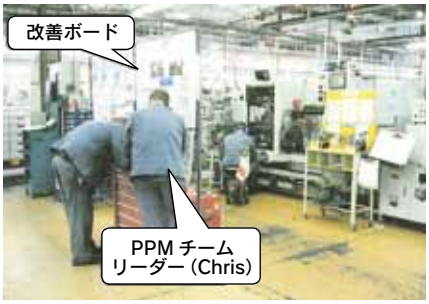
食堂にコーヒーの自動販売機があったが、１ペニー（日本の１円相当）が使用可能だった。

現地人と自家発電設備を見に行ったら、エンジンがランボルギーニ製だった。

喫煙場所は外に設置されていた。

ＫＢＥ

Spencer からのメール回答



PPM チームによる HUB UNIT ラインの改善作業

通　貨

通貨単位はポンドで、補助通貨単位はペンス。１ポンド＝100ペンス。

商品の値札には、ポンドとユーロの両方が表示されていた。

ポンドの大幅下落　（リーマン・ショック）

2007年	236（円／ポンド）
2008年	193（円／ポンド）
2009年	146（円／ポンド）

40%下落

休　日

駐在員に連れていってもらったのは２回程度で、それ以外はアメリカの経験を活かしてほとんど一人で行動していた。

駐在員のゴルフクラブを借りて練習に行ったが、ゴルフバッグを持ち込めないので、クラブだけ持って入った。理由は本球を使用しているからで、また両側と奥にフェンスがなかった。駐在員と一緒にゴルフをしたが、途中で日が暮れてしまった。また、フェアウエイに馬の糞が落ちていた。

近くにある歴史建造物のジョージア朝の大邸宅（Canon Hall）を見学したが、駐車場に券売機があり購入して携帯していた。見学後に車を見たら紙が張られていたので、翌日会社で現地の人に尋ねたら、駐車券はダッシュボードに掲示することになっているとのこと。定期的にチェックする人がいる（券売機はアメリカの路肩駐車場にあるのと似ている）。

スーパーマーケットに買い出しに行った時、レジの品物の置台がベルトコンベアだった。前の人の買った品物と区別するために、間仕切り用の板を置いて自分の買った品物を並べた。キャベツはパックしていて、日本の1/3程度の非常に小さかった。

イギリスはビタービールが有名ですが、口に合わなかった。

令和４年 悠久同窓会総会

令和４年８月12日

８月12日（金）、悠久同窓会総会を開催しました。コロナ禍のため、令和２年度、３年度は開催中止となり、今回は３年ぶりの開催となりました。

今回の悠久同窓会総会に出席された方々です。

悠久同窓会総会には、14名の卒業生の方に出席いただき、大島雅緒氏（10M）による特別講演「地域社会に貢献するという命題を踏まえたクレメントプラザのリニューアル」も開催されました。オンラインでも関西支部長の久米啓右さん（7E）、関東支部長の高橋保人さん（7M）も参加され、意見交換をしました。

また、総会終了後に、短時間ではありますが、名誉教授の先生方との交流の機会もありました。

ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。

令和４年８月12日　大島雅緒氏講演会

現役クラブだより

…体育部…

陸上競技部

OB & OG の皆さん、陸上競技部の近況をご報告いたします。2022 年（令和４年）の陸上競技部は、高橋颯太（3C）キャプテンを筆頭に、４月に一年生の新入部員７名（男子選手５名、女子マネージャー２名）を加えて新年度の活動を開始しました。顧問教員は、谷中俊裕（一般教養［英語］）先生、松尾俊寛（一般教養［物理］）先生、大北裕司（機械コース）先生、伊丹　伸（機械コース）の４名体制は変わっていません。外部コーチは、今年も陸上競技部 OB の麻植一輝氏にお願いしています。

2022 年の陸上競技に関する話題は何といってもインターハイ陸上競技が８/３（水）～７（日）の５日間、徳島県（鳴門大塚スポーツパークポカリスエットスタジアム）を舞台に 51 年ぶりに開催されたことでしょう。残念ながら本校からの出場選手はいませんでしたが、高校生トップアスリートの頂点をかけた熱戦が間近で見られ、選手にとって非常に刺激になりました。

さて、2022 年の陸上競技部の活動状況を振り返ってみます。２年振りに開催された第 68 回徳島駅伝では、２名が各郡市の代表として健脚を披露しました。第 74 回四国高校総体陸上競技には２名、第 24 回四国高校新人陸上競技選手権大会には１名が徳島県代表選手として出場することができました。第 76 回中四国インカレの女子 1500m では黒田凜（4C）さんが７位に入賞しました。成年男子やり投でとちぎ国体に出場（国体初出場）したコーチの麻植選手を始めとして、複数の現役 OB 選手も活躍しました。また、顧問の松尾先生は、県内外のマスターズ大会で 60m あるいは 100m に出場し、好記録を連発しています。

次に高専大会関係です。第 57 回全国高専体育大会陸上競技では、女子 800m で黒田さんが２位の選手と 0.02 秒差の激闘の末、優勝（大会３連覇）しました。全国大会３連覇は、本校陸上競技部では男女を通じて初の快挙です。その予選会を兼ねた第 59 回四国地区高専体育大会陸上競技では、２大会ぶり 14 回目の総合優勝、男女合わせて個人種目４種目で優勝（女子 800m で黒田さんが大会３連覇達成）しました。

最後に、2023 年（令和５年）の目標ですが、四国地区高専体育大会陸上競技（西条市）の総合２連覇、全国高専体育大会陸上競技（関東信越地区で開催）での活躍などを目指しています。OB & OG の皆さん、これからも阿南高専陸上競技部への御支援、御指導ならびに応援よろしくお願いいたします。

以下に 2022 年に出場した各大会での上位入賞者の種目＆順位＆記録を時系列で列記しておきます。

《一年間の主な戦績［2022 年（令和４年）１月から 12 月まで］》

◆第 68 回徳島駅伝

令和４年１月４日～５日（阿北コース、北方コース）

小松島市代表　黒田　凜（3C）

名東郡代表　　桒原辰光（4Ⅰ）［主将］

◆第 44 回徳島陸上競技カーニバル

令和４年４月９日～ 10 日（ポカリスエットスタジアム）

・女 800m　　第４位　黒田　凜（4C）　2’28”34

・女 1500m　　第６位　黒田　凜（4C）　5’06”44

◆2022 第１回徳島中・長距離記録会

令和４年４月 16 日（ポカリスエットスタジアム）

・女 1500m Ａ組　第３位　黒田　凜（4C）　4’59”52

◆第 93 回徳島陸上競技選手権大会

令和４年４月 30 日～５月１日（ポカリスエットスタジアム）

・女 800m　　第７位　黒田　凜（4C）　2’27”39

◆2022 第２回徳島中・長距離記録会

令和４年５月７日（ポカリスエットスタジアム）

・男 1500m Ｃ組　第１位　浅野俊亮（3M）　4’22”73

・女 1500m Ａ組　第３位　黒田　凜（4C）　4’55”95

◆第 76 回中国四国学生陸上競技対校選手権大会

令和４年６月３日～５日（島根県立浜山公園陸上競技場）

・女 1500m　　第７位　黒田　凜（4C）　4’58”46

◆第 62 回徳島県高等学校総合体育大会陸上競技

令和４年６月５日～７日（ポカリスエットスタジアム）

・男走幅跳　　第６位　桑野隼人（13）　6m17

・男八種競技　　第３位　三居大智（3M）　3531 点

◆第 74 回四国高等学校陸上競技対校選手権大会

令和４年６月 18 日～ 20 日（ポカリスエットスタジアム）

・男走幅跳　　第 20 位　桑野隼人（13）　6m06

・男八種競技　　第 11 位　三居大智（3M）　3797点〈自己新〉

◆第 36 回徳島マスターズ陸上競技選手権大会

令和４年６月 26 日（ワークスタッフ陸上競技場）

・M50_60m　　第１位　松尾俊寛（顧問）　7”90〈自己新〉

・M50_100m　　第１位　松尾俊寛（顧問）　12”27〈自己新〉

◆第 59 回四国地区高等専門学校体育大会陸上競技

令和４年７月 16 日～ 17 日（西条市ひうち陸上競技場）

・総　　合　　第１位　得点：84 点

・男 400m　　第３位　桑野隼人（13）　52”82〈自己新〉

・男 1500m　第３位　浅野俊亮（3M）　4’15”86
〈自己新〉
・男 110mH　第３位　森　麗央（4M）　18”01
・男４×400mR　第３位　桑野（13）、高橋（3C）、中谷（3C）、浅野（3M）
3’33"91〈チーム新〉
・走高跳　第１位　大前雄三（4M）　1m70
第３位　森　麗央（4M）　1m65
・男走幅跳　第２位　桑野隼人（13）　5m97
・男砲丸投（6.000kg）
第１位　坂野翔哉（5C）　13m75
〈大会新 ４連覇〉
・男円盤投（1.750kg）
第１位　坂野翔哉（5C）　34m54
〈自己新 ４連覇〉
・男やり投（0.800kg）
第２位　坂野翔哉（5C）　45m00
・女 100m　第２位　黒田　凜（4C）　14”51
・女 800m　第１位　黒田　凜（4C）　2’25”29
〈３連覇〉
・女走幅跳　第３位　黒田　凜（4C）　4m13

◆第 57 回全国高等専門学校体育大会陸上競技
令和４年８月 20 日～ 21 日（ニンジニアスタジアム）
・女 800m　第１位　黒田　凜（4C）　2’20”23
〈３連覇〉

◆第 56 回阿南市陸上競技選手権大会
令和４年９月３日（ＪＡアグリあなん陸上競技場）
・男 1500m　第２位　浅野俊亮（3M）　4’24”34
第３位　中谷優太（3C）　4’27”80
〈自己新〉

◆第 52 回徳島県高等学校新人陸上競技大会
令和４年９月 17 日（ポカリスエットスタジアム）
・男走幅跳　第２位　桑野隼人（13）　6m18
〈自己新〉

◆第 24 回四国高等学校新人陸上競技選手権大会
令和４年 10 月 15 日～ 16 日（ポカリスエットスタジアム）
・男走幅跳　第 12 位　桑野隼人（13）　6m00

◆第 11 回徳島陸上競技秋季カーニバル
令和４年 10 月 29 日（ポカリスエットスタジアム）
・男 400m　第５位　桑野隼人（13）　52”35
〈自己新〉
・男 800m　第６位　浅野俊亮（3M）　2’02”68
第７位　高橋颯太（3C）　2’04”53
〈自己新〉
・男走幅跳　第２位　桑野隼人（13）　6m53

◆2022 第６回徳島中・長距離記録会
令和４年 12 月３日（ポカリスエットスタジアム）
・女 5000m Ａ組　第８位　黒田　凜（4C）　18’25”43

（陸上競技部顧問　伊丹　伸）

阿南高専祭 2022

令和４年 11 月５日（土）阿南工業高等専門学校校内において「阿南高専祭 2022」が開催されました。

テーマ「make it together ～皆で創る高専祭～」のもと、校内限定でなく、一般開放する形で実施されました。

校舎では各コースによる専門展示を含む多くの展示、フェニックス広場では吹奏楽部や軽音楽部による演奏と学生有志によるカラオケやストリートピアノ演奏がなされました。

そして今回、悠久同窓会からは、四国大学書道パフォーマンス部「はれるや」の皆様をお招きしました。大胆かつ鮮やかで、活き活きとした素晴らしい書道パフォーマンスの披露にフェニックス広場が大いに盛り上がり、たくさんの元気をいただきました。

パフォーマンスを終えて。「はれるや」の皆さんと

…文化部…

吹奏楽部

昨年度に引き続き今年度もコロナウイルス感染防止対策を行いながらの活動でした。校内フェニックス広場にてプチコンサートを行うなど、野外での演奏活動が中心となりました。11月5日高専祭においても、吹奏楽部はフェニックス広場で「ミックスナッツ」「タイミング」「トランペット吹きの休日」「きらり」「YOASOBIメドレー」「星に願いを」を演奏しました。

四国地区高専総合文化祭（今年度は高知高専主管）の吹奏楽部門は12月11日しこちゅ～ホール（愛媛県四国中央市）で開催され、本校吹奏楽部は日頃練習してきた「LAST CHRISTMAS」「トランペット吹きの休日」「YOASOBIメドレー」「星に願いを」を演奏し、審査の結果、奨励賞を受賞しました。

総合文化祭演奏

12月18日にはANAN luminous Town Project 2022（阿南市牛岐城址公園）に参加し、雪の舞う中、「LAST CHRISTMAS」「Mela！」「星に願いを」等を演奏しました。専攻科、本科の最終学年にとっては部員最後の演奏で、記念すべきステージになりました。

2023年1月15日には第50回徳島県アンサンブルコンテスト大学部門に出場しました（美馬市交流センターミライズ）。金管5重奏で「Green　Aventurine」を演奏し、結果は銀賞でした。

今後もしばらくは制約の中で活動することになると思われますが、工夫して演奏を続きていきたく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

（吹奏楽部顧問　錦織浩文）

ANAN Luminous Town Project 2022　演奏

茶　道　部

茶道部OB・OGの皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員15名（専攻科1名、5年4名、3年2名、2年4名、1年4名）で活動しています。4年生部員は依然として不在です。

ここ数年、新型コロナウイルス対応のために、かなり活動が制限されていますが、今年度も学寮の教養講座は実施されており、講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週2回ずつ、高志会館2階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林

初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。また、茶道部OBの桑村憲治専門職員にも引き続きいろいろご助言いただいてお世話になっています。顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が担当しています。

以下、今年度の行事を報告します。新型コロナウイルス対応で、昨年度まで春と冬のチャリティー茶会は実施していませんでしたが、今年度は春と冬ともに実施することができました。期間はどちらも2日間のみでしたが、常連の教職員をはじめ、多くの学生たちにご来会いただきました。昼休みのお茶会の段取りは初めての部員が多くやや戸惑っていたようですが、無事に実施できてよかったと思います。

11月の高専祭（昨年度に引き続いて、例年よりも規模を縮小して1日だけ実施したため蒼阿祭ではなく高専祭として実施）については、今年もお茶会を開くことができました。今年度は外部からの来訪制限もなく、本校の学生や教職員だけでなく、保護者や学生の友人らも参会でき、盛況のうちに実施できました。来年度は恒例の女子学生による和服のおもてなしも復活できればよいと思います。

12月には四国地区高専総合文化祭（高知高専主催）が四国中央市のしこちゅ～ホールで開催され、新型コロナウイルス対応でいろいろ制限があったなか、日帰りでお茶席を実施することができました。ただ、参加校は香川高専高松キャンパス・高知・阿南の3高専のみでした。

学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

- 4月　春のチャリティー茶会
- 11月　高専祭　お茶席
- 12月　四国地区高専総合文化祭（高知高専主催）お茶席
- 1月　初釜チャリティー茶会

部　　長　金住和香（機械コース3年）
顧　　問　藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

部員はやや少人数にはなっていますが、例年どおりに和気藹々とした雰囲気のもとお稽古に励んでいます。新型コロナウイルスの状況はまだ予断を許しませんが、できるだけ早くこれまでのような活動ができることを願っています。今後ともOB・OGの皆さまにはご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。また、OB・OGの皆さまもくれぐれもご自愛ください。

（茶道部顧問　藤居岳人）

プログラミング研究部

プログラミング研究部のOB・OGの皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。プログラミング研究部は、昨年度より同好会から部に昇格し、また、私（太田健吾）が主顧問となり、新たな体制で活動しております。

さて、今年度は第33回全国高専プロコン群馬大会が2022年10月15日（土）～16日（日）にGメッセ群馬で開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、昨年度および一昨年度はオンラインでの開催となりましたが、今年度は２年ぶりの現地開催となり、全国の高専から集まった参加者が一堂に会することができました。

阿南高専は、「オンラインで生み出す新しい楽しみ」をテーマとした課題部門において、「行動受注集会所 － ACT EASILY IN GROUPS －」「リモートラベラーズ －オンラインで友達と旅行ができるアプリ－」と題した２つのチームがそれぞれ予選を通過しました。

「行動受注集会所 － ACT EASILY IN GROUPS －」は、初心者でも動画投稿に楽しく参加できる画期的な仕組みを提案し、Webアプリケーションとして実現しました。発表資料やアプリケーション画面の優れたデザインに加え、ビジネス展開の可能性などが非常に高く評価され、NICT賞を受賞しました。本賞の副賞として、起業家甲子園への参加権が授与されており、アイデアをさらにブラッシュアップしていきます。

「リモートラベラーズ －オンラインで友達と旅行ができるアプリ－」は、コロナ禍で多人数による旅行が制限された社会において、オンラインで旅行体験を共有することで新しい旅の楽しみ方を実現するSNSアプリケーションを提案しました。完成度の高いプレゼンテーションやデモンストレーションが評価され、敢闘賞を受賞しました。

また、競技部門では、「かるた」を題材とした競技が行われ、日本語と英語の２種類の言語による複数の読み上げが入り混じった非常に聞き取りの困難な読み上げ音声を各チームがプログラムで解析し、読み上げられた札の推定に挑みました。阿南高専のチーム「留学生パワー」は、並列計算を駆使した高度なプログラミング技術により、決勝戦への進出を果たし、全49チーム中６位という好成績を収めました。

ひさしぶりの現地開催でしたが、現役部員にとっては大会の空気を初めて肌で感じることができ、良い経験となったと思います。阿南高専は、課題･自由部門において、2012年の第23回大会以来11回の連続本選出場を果たしており、直近11回の連続出場は全国の高専63校中３校のみが達成している快挙となります。今後もさらなる活躍に向けて日々取り組んで参りたいと思います。引き続きご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（プログラミング研究部顧問　太田健吾）

よろず伝言板

高専制度創設60周年記念事業について

特設HPはこちら
https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/60th/
もしくは、
高専　60周年記念事業　検索

●●● 是非ご覧ください。●●●

支部だより

悠久東京支部同窓会

関東支部悠久同窓会開催について

支部長（昭和 48 年度機械） 高 橋 保 人

悠久関東支部同窓会を令和４年 10 月 22 日（土）午後１時から、新宿住友ビル 47 階住友クラブにて開催しました。当日は高層ビルの窓から見える風景は絶景で、３年半ぶりの再会にふさわしい天候でした。令和最初の同窓会でもあり、振り返ると昭和、平成の元号を確実に実施してきたことに格別な想いもあります。また、例年と同じ場所で開催できるのも前支部長でもある 1M の喜多さんのおかげです。感謝の一言です。

開催にこぎつけるまでに、紆余曲折がありました。第７波によるコロナ感染が猛威を振るい、この状況下で開催してよいものかかなり悩みました。喜多さんにも相談し、開催したい旨を住友クラブ様にかけ合って頂き、コロナ対策を盛り込めば何とかできることを確認しました。マスク着用、座席スタイル、消毒、参加人数制限といったコロナ感染対策を条件に進めることとしました。案内は関東支部の会員をメインとし、悠久同窓会会長、事務局にも案内を出しました。6E の新居さんも SNS を駆使して広めて頂き、結果、28 名から参加の意思を得ました。これほどの参加者が集まるとは思いませんでしたので正直驚きました。

さて、次第ですが、各方面の関係者の方々に挨拶をお願いしました。母校の寺沢元校長からは在職中の話や退任後の仕事など近況を話して頂きました。海外のマラソンにも果敢に挑戦しているスポーツマンでもあります。次は副校長の田中達治先生にお願いしました。同窓会と非常に関りがあり、悠久同窓会事務局としての職務の傍ら、若い卒業生を温かく見守っている先生です。本年限りで退任するとのことなのでお呼びし挨拶をお願いしました。後任となる中村雄一先生にもお越しいただきました。本校卒業生（22M）でもあります。遠路ご苦労様でした。続いて同窓会会長の横手久典さんは本校 14C の卒業生で、阿南市で鳳凰機械工業の代表取締役を勤める傍ら、悠久同窓会会長職を担っており今後の同窓会の進め方などのお話を含め挨拶を頂きました。

2M の乾　寛さんより乾杯の発声を頂いた後は、今までとは異なり座席での飲食となりました。併行して、会員には近況報告をお願いしました。今回１期生から 53 期生まで幅広い集まりでしたが、初めて参加、久しぶりに参加する方も複数人いたので、話が弾み時間が足りないぐらいでした。年の差は離れていても大いに盛り上がった時間帯となりました。

近況報告も終わり、恒例のビンゴゲームには進行役として、常連の 42S の谷澤彰紀さんと今回初めて参加の 53M の野口篤史さんにお願いしました。賞品には、住友クラブオリジナルのワインなどが提供され、ビンゴを当てた人が喜んでいたのは印象的でした。盛り上がる中、「アッ」と言う間に時間が過ぎてしまい、ゲームの後は、閉めの言葉・手締めを 2E の湯浅尋夫さんにやって頂きました。

慌ただしい中ではありましたが、写真撮影も無事終わり、次回も元気な顔で会うことを約束し散会となりました。散会後も名残惜しいメンバーが二次会に消えていったことをお伝えしておきます。ほとんどの方が参加しました。

最後に、関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。

次回の同窓会は、2023 年 10 月 28 日（土）、新宿住友三角ビルにて行う予定です。詳細は別途案内いたします。

近　況　報　告

中　原　康　弘（26M）平成４年度
相変わらず東海道新幹線通勤してます。通勤時間を利用してプロジェクトマネジメントプロフェッショナルの資格を取りました。

乾　　寛（2M）昭和 43 年度
身体の老化防止には、スキーと模型工作
精神の老化防止には、毎朝の夢日記

湯　浅　尋　夫（2E）昭和 43 年度
元気にやっております。作詞家を目ざしております。

庄　野　新　一（1M）昭和 42 年度
元気に毎日、ゴルフ、テニスにがんばっています。

喜　多　明　徳（1M）昭和 42 年度
創部 40 年ソフトボール部の監督を卒業。
東京・阿南ふるさと会で PR につとめています。
３年ぶりの悠久同窓会、28 名の参加

高　橋　保　人（7M）昭和 48 年度
久しぶりの開催、うれしいです。
私も元気でいたいと思う今日この頃、また来年会いましょう。

野　田　篤　志（53M）令和元年度
学生をやっております。皆様どうぞよしなに。

谷　澤　彰　紀（42S）平成 20 年度
You Tube ばっかり観てます!!

川　人　真佐行（4E）昭和 45 年度
エージシュートを目指そう！

畑　山　芳　文（4E）昭和 45 年度
仕事はソコソコ。最近はサッカー・シニアでプレイ。
小学４年生のクラブチームのコーチをしています。

住　瀬　秀　夫（6E）昭和 47 年度
関東同窓会への参加は２回目かと。卒業以来 60 歳の定年まで、ずっと同一会社の工場勤務でした。職業訓練所等を経て、小さなラジオ局に勤務中。在校中のワンゲルに始まり、今も山歩きを楽しんでいます。
又、ボランティアも少し楽しんでいます。

白　浜　真二郎（7E）昭和 48 年度
初めて参加します。今のパナソニックにはいり東京で 40 年になります。
今はたまの山登りやゴルフを楽しんでいます。

新　居　秀　明（6E）昭和 47 年度
近況ですが、①最近、初オープンカーオーナーになりました。ただし、軽自動車です。
②まだ献血やってます。70 才未満までなのであと少し、

悠　久　東　京　支　部

現在 200 回達成！
③エキストラもまた復活してます。
そろそろ終活せねばなりません。

林　　祐　貴（26M）平成４年度
前回の参加から早３年。やはり影響を受け、もがいております。ただ、そのまま過ごすのも嫌なので、私も奮い立たせる為に自分の好きな自動車を再度購入し、修理三昧で楽しんでおります。

森　　宜　彦（12E）昭和 53 年度
いろいろ刺激的な生活をしています。最近は、霊視監定の修行を始めました。新しい発見が、いっぱいあって楽しいです。仕事は、相変わらず IT 技術者です。年をとっても問題なくプログラミングやってます。

荒　川　太　郎（23M）平成元年度
今年から、米国バークシャーハザウェイカンパニーで企業の広報・PR ニュース配信をグローバルに展開しています。自宅から Online 会議で仕事をする毎日が続いていて、殆ど海外出張がないのですが、世界中の人々とお会いする機会がとても刺激的で、楽しく過ごしています。

速　水　隆　夫（10E）昭和 51 年度
昨年に２つ目の会社を退職後、年金生活してましたが、今年に３つ目の会社に入社しました。真空管の売買、真空管アンプの修理を行う小さな会社で、パートとして楽しく過ごしてます。

田　上　博　雅（5M）昭和 46 年度
今年で 71 才。人生 100 年時代を迎え、今後も「雲水（うんすい）」の心境で日々過ごす所存です。

尾　田　　晃（36S）平成 14 年度

ついに独身男やもめで 40 才をむかえました。としのせいか血圧が人間ドックで引っかかり、左肩が上がらなくなったりしてますが、それ以外は元気にやってます。

堀　口　　浩（14E）昭和 55 年度

コロナで在宅勤務が多く、５kgも太りました。定年まで後 2.5 年です。バリバリソフト開発中!!

横　手　久　典（14C）昭和 55 年度

関東悠久に来る度に勇気をいただいております。
今は阿南高専の現役学生のバックアップができるよう、ACT、後援会と手を結んでがんばっていきます。どうか、皆様の御尽力御協力お願い申し上げます。
※孫はかわいいですね!!

田　中　達　治（13E）昭和 54 年度

久しぶりに会えて、楽しい時間をすごしました。今後もよろしくお願いします。

中　村　雄　一（22E）昭和 63 年度

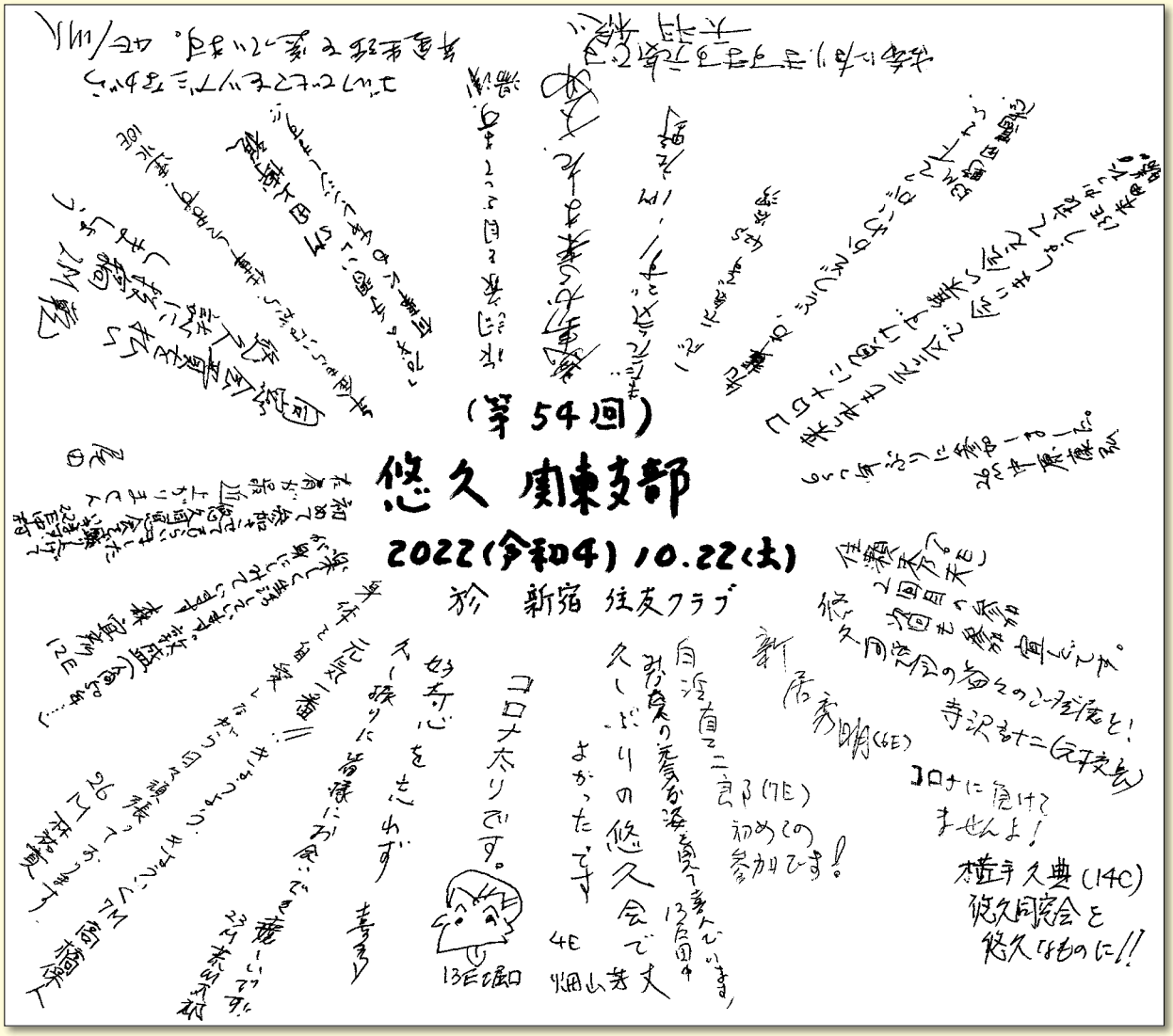
関東支部に初めて参加させていただきました。
田中副校長より事務局を引き継いで悠久同窓会を盛り上げていくよう、努力していきます。
今後ともよろしくお願いします。

本　田　　勝（13E）昭和 54 年度

2020 年に AGC ㈱を退職し、その後１年間だけ他の会社で仕事をし、今は無職です。
今は毎日米国 MLB をテレビで観ています。
娘は大学３年生、息子は高校３年生です。妻はパートで働いています。

西　野　賢太郎（2E）昭和 43 年度

ACT フェローシップ（阿南高専教育研究助成会）活動を通して地域の課題解決（人口減少・温暖化・防災・脱炭素）の研究活動支援、同窓会活動支援にとりくんでいます。ぜひ ACT フェローシップにご入会頂き、母校の研究活動支援よろしくお願いします。



よろず伝言板

「各種証明書」の発行事務についてのお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。（卒業・修了・成績・履修・調査書など）これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意･ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

1．各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。提出するときには、押印が必要です。

2．遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のものを郵送して申し込むことができます。

① 「諸証明発行願」：発行願には下記のことを記載してください。

(ｱ) 必要な証明書の種類（卒業証明書・成績証明書等）
(ｲ) 必要部数
(ｳ) 使用目的・提出先
(ｴ) 氏名（卒業時の名字）
※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。
(ｵ) 生年月日
(ｶ) 卒業・修了学科
(ｷ) 卒業・修了年月日

② 返信用封筒

(ｱ) 郵便番号・宛先・宛名を記載してください。
(ｲ) 84円切手（必要部数が多い場合は94円か120円）を貼ってください。
速達の場合は260円分を追加してください。

③ 身分証のコピー（免許証等）

3．その他

①英文証明書や調査書の発行には、１週間～10日程度を要します。また、郵送の場合はさらに４日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。

②緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけますと、お待たせせず証明書を発行できます。
※英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。

③発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費（切手）のみ必要です。

④証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■申請先■

〒774－0017　阿南市見能林町青木265
阿南工業高等専門学校　学生課教務係
電　話（0884）23 － 7133
ＦＡＸ（0884）22 － 4232

この“よろず伝言板”は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。
何でも結構！！ふるって御投稿下さい。

悠久第56号原稿募集
（阿南高専悠久編集部）

阿南高専同窓会誌「悠久」も本号で第55号となります。最近は会員だよりの原稿を集めるのに苦労しています。来年の56号を充実したものにするため、皆様の楽しい便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など、何でもかまいません、どしどし原稿をお送り下さい。量はＡ４版１枚に収まる範囲程度です（もちろん少ない原稿も歓迎します）。郵送もしくは左記のメールアドレスに添付ファイルにてお送りください。

編集委員一同首を長くして待っています。

編集委員
1回機械　上田登志男（徳島市）
1回機械　福富正和（阿南市）
1回機械　林岩男（藍住町）
2回機械　林政憲（徳島市）
2回電気　中津清（徳島市）
2回電気　岡本満雄（徳島市）
3回機械　寒川和哲（小松島市）
3回機械　藤井美廣（徳島市）
3回電気　荒木敏雄（小松島市）
4回機械　中山茂樹（徳島市）
4回電気　平尾強一（阿南市）
5回電気　森忠敬（徳島市）
6回土木　上原豊志（鳴門市）
8回機械　森岡和博（船橋市）
13回機械　齋友文（徳島市）
13回電気　田中達治（徳島市）
17回機械　伊丹伸（阿南市）

原稿送り先　〒774-0017
阿南市見能林町青木265
阿南高専内悠久同窓会事務局
メール送付先　dosokai@anan-nct.ac.jp
原稿締切　2023年11月13日必着

阿 南 高 専 卒 業 生 数

（　）内は女子数で内数　令和４年12月31日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科 機械コース	電気工学科 電気電子工学科 電気コース	制御情報工学科 情報コース	土木工学科 建設システム工学科 建設コース	化学コース	合計
昭和42	1	80	38 (1)				118 (1)
43	2	79	37 (2)				116 (2)
44	3	70	31				101
45	4	67	37 (1)				104 (1)
46	5	55	36		33		124
47	6	82	39 (1)		34 (1)		155 (2)
48	7	67	36 (1)		38		141 (1)
49	8	61	34 (1)		30		125 (1)
50	9	69	32 (1)		35		136 (1)
51	10	61	36		37		134
52	11	82	40		37		159
53	12	70	31		32		133
54	13	71	40		30		141
55	14	66	38		31		135
56	15	64 (1)	38		33 (1)		135 (2)
57	16	61	35		31 (4)		127 (4)
58	17	65	37		26		128
59	18	76	34 (1)		34		144 (1)
60	19	54 (1)	37		32		123 (1)
61	20	75	36		28		139
62	21	59	40		32		131
63	22	71	40		40		151
平成元	23	72	41 (1)		43 (1)		156 (2)
2	24	75	42		32		149
3	25	78	44 (1)		38 (1)		160 (2)
4	26	74	43 (1)		31		148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)		139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)		162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)		149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)		164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)		151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)		161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)		138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)		160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)		149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (9)	32 (5)		129 (24)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)		144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)		163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)		148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (8)	28 (8)		139 (21)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)		139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)		155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)		152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)		135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)		146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)		166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)		152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)		144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	42 (3)	22 (7)		145 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)		148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)		151 (29)
30	52	40 (2)	24 (1)	37 (8)	23 (9)	25 (11)	149 (31)
令和元	53	40 (7)	33 (7)	33 (5)	23 (6)	24 (5)	153 (30)
2	54	32 (3)	35 (7)	38 (8)	20 (7)	24 (5)	149 (30)
3	55	40 (4)	38 (5)	38 (3)	22 (8)	21 (7)	159 (27)
合計		2,929 (55)	2,093 (130)	1,072 (297)	1,664 (219)	94 (28)	7,852 (729)

令和４年度卒業予定者（56回）

（　　）内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
令和４年度卒業予定者	56	37 (9)	37 (4)	36 (5)	23 (7)	20 (1)	153 (36)

（注）① 平成元年度から機械工学科（２学級）を機械工学科（１学級）と制御情報工学科（１学級）に改組。 ② 平成５年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③ 平成14年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。 ④ 平成26年度から４学科を創造技術工学科１学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の５コース制に再編。

総会のお知らせ

2023年8月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

※但し、新型コロナウイルス感染拡大状況により中止になる可能性があります。開催の有無については決定次第、阿南高専ホームページ上でお知らせいたしますので、事前にご確認ください。

講演会

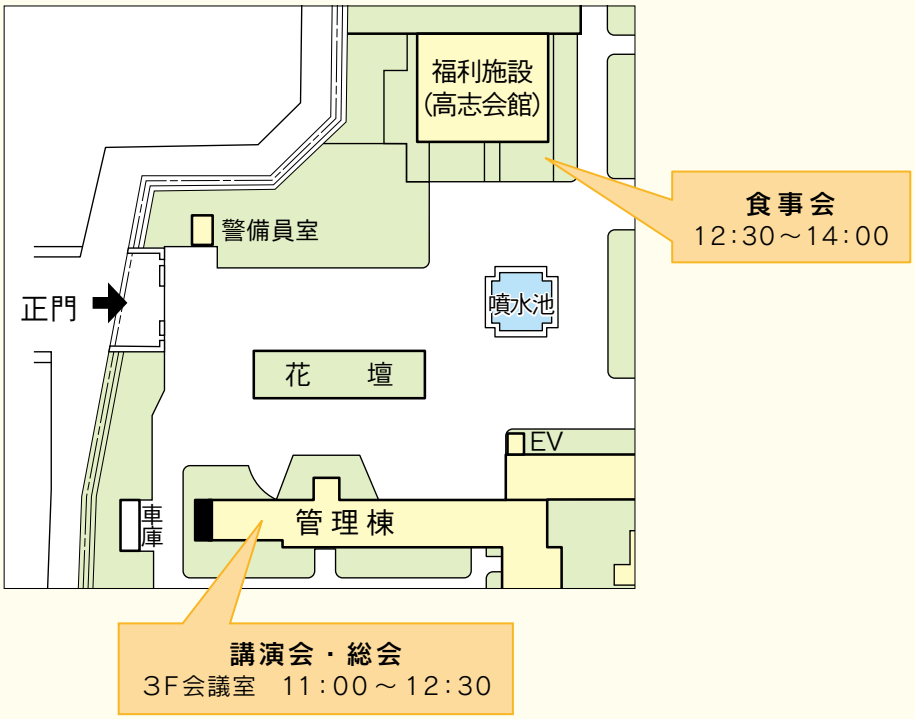
10：30　受　付
11：00～12：00　講演会
演　題：日本芸能について
講　師：前進座・座友
山 崎 辰三郎 氏（2M）
場　所：阿南工業高等専門学校　管理棟3F会議室

総　会

12：00～12：30　総　会
12：30～14：00　名誉教授の先生方との合同食事会
場 所：阿南工業高等専門学校　高志会館

会場案内

駐車は噴水の周りの空いているスペースをご利用ください。



寄付金募集のお知らせ（阿南高専悠久同窓会）

悠久同窓会会則第13条（本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる）の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送　り　先　阿南市見能林町青木265
阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合　郵便局振込
コンビニ振込
銀行振込　徳島大正銀行　阿南支店 普通
口座番号　８５９４４４２
阿南工業高等専門学校悠久同窓会